

高崎市文化財調査報告書第 381 集

上中居岡東遺跡 3・高関村前遺跡 3

—上中居土地区画整理事業に伴う発掘調査—

2017

高崎市教育委員会

序

高崎市は、北西に榛名山、北東に赤城山、西に妙義山などの上毛三山を望む群馬県の南西部に位置しております。平成18年から21年にかけて、周辺の6町村と合併を行い、人口37万5千人を擁する都市となりました。こうして誕生した新たな高崎市は、平成23年4月1日より中核市へ移行しました。

本書で報告する上中居岡東遺跡3・高関村前遺跡3は、上中居土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査です。これらの調査の結果、弥生時代の方形周溝墓や中世の溝などが確認されました。中でも弥生時代に該当する方形周溝墓はこれまで上中居周辺では確認されておらず、貴重な発見となりました。また、確実な生活の痕跡こそ見出すことができませんでしたが、高関村前遺跡では縄文時代中期の土器が多量に発見されました。このことから上中居周辺には縄文時代中期頃から人々が生活を始めていたことがうかがえます。

最後になりましたが、発掘調査報告書の刊行にあたりご協力・ご指導をいただきました関係諸機関ならびに地元関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、発掘調査や整理作業に従事した作業員の方々の労をねぎらい、序といたします。

平成29年 3月

高崎市教育委員会

教育長 飯野 眞幸

例言

1. 本書は、上中居土地区画整理事業に伴って平成22・24・25年度に実施した遺跡調査の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は、高崎市上中居町1343・1344・1345・1382-3、高岡町51-1、54-1・4、55-4・5、56-1である。
3. 発掘調査および整理は、高崎市教育委員会文化財保護課が行った。
4. 本遺跡は、高崎市遺跡番号「481・560」に該当する。
5. 調査組織は次のとおりである。

平成22年度：(事務局) 田口一郎 須田奈保子 山田いづみ

(調査担当) 大野義人

平成24年度：(事務局) 田口一郎 神澤久幸 山田いづみ

(調査担当) 大野義人 岡崎裕子

平成25年度：(事務局) 田口一郎 神澤久幸 山田いづみ

(調査担当) 大野義人 岡崎裕子

平成28年度：(事務局) 角田真也 針井修 加藤志津代

(整理担当) 大野義人

6. 発掘調査期間は以下のとおりである。

平成22年度(上中居岡東遺跡3) 平成22年7月28日～平成22年8月19日

平成24年度(高岡村前遺跡3) 平成25年2月5日～平成25年3月28日

平成25年度(高岡村前遺跡3) 平成25年4月4日～平成25年4月30日

7. 整理作業期間は以下のとおりである。

平成25年度 平成25年5月9日～平成25年1月30日

平成28年度 平成28年7月1日～平成29年3月31日

8. 本書の執筆・編集は人野が行った。

9. 遺構図面作成は発掘作業員および大野が行い、デジタルトレース作業は整理作業員および大野が行った。遺物整理・実測作業は整理作業員および大野が行い、デジタルトレース作業および写本は整理作業員が行った。

10. 遺構の写真撮影は大野・岡崎が行った。高岡村前遺跡3の空中写真撮影は株式会社測研に、遺物の写真撮影は株式会社シン技術コンサルに委託した。

11. 本事業に際し、発掘調査における表土の掘削・埋戻を株式会社井ノ上が行った。

12. 本遺跡の出土遺物・記録類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。

凡例

・本書に使用した地図は、高崎市都市計画図(1/2500)、および国土交通省国土地理院発行の1/25,000の地形図『高崎』[前掲]である。

・本書中に使用した座標値は、平面直角座標第IX系国家座標(世界測地系)を用いており、方位はその座標北を示す。

・土層および遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。

・本報告書で用いた縮尺については、各図版に付したスケールを参照されたい。

・遺構一覧表に用いた単位はmであり、()で示した数値は残存範囲の法量である。

・遺物観察表に用いた単位はcmであり、()で示した数値は残存部の法量である。

・ピットの詳細については、各遺跡の検出遺構一覧表を参照されたい。

・本書で使用した火山灰の略称については、以下のとおりである。

A s - A : 浅間A軽石(1783年(天明3年)の浅間山噴火に由来)

A s - B : 浅間B軽石(1108年(天仁元年)の浅間山噴火に由来)

目次

序

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 各遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2節 各遺跡の概要・・ 1

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地・地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2節 周辺の遺跡・歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第3節 周辺遺跡の過年度調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第3章 上中居岡東遺跡3の発掘調査

第1節 発掘調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第2節 基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第3節 第1面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第4節 第2面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第4章 高関村前遺跡3の発掘調査

第1節 発掘調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第2節 基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第3節 第1面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

第4節 第2面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

第5節 第3面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

第5章 まとめ

第1節 上中居岡東遺跡3・高関村前遺跡3の調査成果・・・・・・・・・・・・・・ 34

第2節 上中居町・高関町周辺の調査成果について・・・・・・・・・・・・・・ 34

写真図版

抄録・奥付

挿図目次

- 第1図 上中居岡東遺跡3・高関村前遺跡3周辺遺跡・・・3
第2図 上中居土地区画整理事業に伴う発掘調査・・・3

上中居岡東遺跡3

- 第3図 調査区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第4図 調査区全体図・基本層序・・・・・・・・・・7
第5図 A区第1面全体・遺構平面・断面・遺物図、B区第1面全体・遺構平面・断面図・・・・・・・・・・9
第6図 A区第2面全体・遺構平面・断面・遺物図、B区第2面全体・遺構平面・断面・遺物図・・・・・・・・10
第7図 B区第2面遺構平面・断面・遺物図、C区第2面全体・遺構平面・断面・遺物図・・・・・・・・11

高関村前遺跡3

- 第8図 調査区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第9図 発掘調査経緯図・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第10図 調査区全体図・基本層序・・・・・・・・・・15・16
第11図 C区第1面全体・遺構平面・断面図・・・・19
第12図 D区第1面全体・遺構平面・断面図・・・・20
第13図 C区第2面全体・遺構平面・断面・遺物図・・21
第14図 D区第2面全体・遺構平面・断面・遺物図・・22
第15図 A区第3面全体・遺構平面・断面図・・・・23
第16図 C区第3面全体・遺構平面・断面・遺物図・・24
第17図 C区第3面遺構平面・断面図・・・・・・・・・・25
第18図 D区第3面全体・遺構平面・断面図・・・・26
第19図 D区第3面遺構平面・断面図、C・D区遺構外遺物図・・・・・・・・・・27
第20図 C・D区遺構外遺物図・・・・・・・・・・28
第21図 C・D区遺構外遺物出土分布図・・・・・・・・29
第22図 C・D区グリッド別縄文土器出土分布図・・・・30

まとめ

- 第23図 上中居町・高関町周辺遺構分布図・・・・35・36

表目次

- 第1表 周辺遺跡一覧表①・・・・・・・・・・・・・・4
第2表 周辺遺跡一覧表②・・・・・・・・・・・・・・5

上中居岡東遺跡3

- 第3表 検出遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・12
第4表 出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・12

高関村前遺跡3

- 第5表 検出遺構一覧表①・・・・・・・・・・・・・・31
第6表 検出遺構一覧表②・・・・・・・・・・・・・・32
第7表 出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・33

写真図版目次

上中居岡東遺跡3

- PL1 1・2号溝、1号土坑、A・B区全景
PL2 1号方形周溝墓、1号竪穴建物跡、3・4号溝、2号土坑、C区全景
PL3 4号溝、3・4号土坑、出土遺物

高関村前遺跡3

- PL4 空撮写真
PL5 1～3号溝、5・7・9・10号土坑、ビット群
PL6 4号溝、2・4号土坑、A・B区全景
PL7 11号土坑、45・55～59・64号ビット、C・D区全景
PL8 出土遺物

第1章 各遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯

本報告書で報告する遺跡は上中居岡東遺跡3・高関村前遺跡3の2遺跡であり、いずれも上中居土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査である。上中居岡東遺跡3は、平成22年5月に高崎市都市整備部区画整理2課より歩道築造計画に伴う埋蔵文化財の照会があり、これに対して文化財保護課は事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する旨を報告した。その後区画整理2課と文化財保護課で埋蔵文化財保護の協議を行ったが、事業計画の変更は困難であるとの回答を得たため、同年7月から記録保存を目的とした文化財発掘調査を開始した。高関村前遺跡3は、平成23年度に同じく区画整理課より道路築造計画に伴う埋蔵文化財の照会があり、これに対して文化財保護課は事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する旨を報告した。その後の協議の結果、現道および水路については調査対象外とし、それ以外の範囲を発掘調査対象として平成24年2月から調査を開始した。各遺跡の調査区設定および調査方法・過程については第3・4章を参照されたい。

第2節 各遺跡の概要

上中居岡東遺跡3の発掘調査は歩道築造に伴うものであったため、幅1mほどのトレンチ調査に近いものであった。遺構数も少量であったが、方形周溝墓の東辺と思われる遺構が検出された。溝の底部からは弥生時代後期でも古い段階のものと思われる壺が出土しており、貴重な成果が得られた。

高関村前遺跡3の発掘調査は道路築造に伴うものであったが、既存の道路によって既に破壊されていたり調査区中央を水路が施設されていたりしたため、調査範囲と調査工程を大きく制限される調査となった。検出遺構は中世の溝と時期判定の困難な土坑・ピットが中心だが、包含層から多量の縄文土器片が出土しており、中期後半のものが大勢を占めている。

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地・地理的環境

上中居岡東遺跡3・高関村前遺跡3は、高崎市上中居町・同高関町に所在し、いずれも榛名山南東麓から連続する高崎台地の南部に立地する。高崎台地は、約21,000年前(更新世後期)に発生した浅間山の山体崩落に伴う前橋泥流層を基盤とする前橋台地の上であり、主に前橋台地上を南東流する井野川以西に堆積した高崎泥流層を主体として形成されている。本遺跡は、榛名山南東麓を水源とする井野川が浅間隠山を水源とする鳥川に合流する地点の北西にあたる高崎台地上に立地している。

この高崎台地の表面は微細な起伏に富んでおり、本遺跡周辺は北西から南東に向かってなだらかに傾斜する微高地となっている。水系としても重要な地点であり、長野堰から分水された水路が多数南東流している場所でもある。

第2節 周辺の遺跡・歴史的環境

高関村前遺跡3では、包含層中より縄文時代中期後半を中心とする土器片が多数出土しており、周辺遺跡では少量ながら縄文時代に所属する遺構が確認されている。本遺跡と同じ微高地上では上中居遺跡群や中居町一丁目遺跡3などがある。上中居遺跡群は高関村前遺跡3の南東に近接した遺跡群で、集石遺構や土坑、被熱痕跡などの遺構が確認されている。この他に、さらに東方に位置する中居町一丁目遺跡3では竪穴住居跡が確認されている。縄文時代後期後半以降の遺構については現在のところ確認されていない。

弥生時代の活動痕跡が確認されるのは弥生時代中期後半頃からとなる。本遺跡の北方にあたる、微高地から下った低地域に立地する高岡堰村遺跡からは、弥生時代中期後半の溝が検出されている。溝の北方にあたる高岡堰沖・村前遺跡9区では同時期と思われる竪穴住居跡が1軒確認されており、高岡堰村遺跡の溝を深溝とするならば、溝の北側に集落が存在すると思われる。また、微高地から南に下った低地域に属する高崎鏡馬場遺跡でも弥生時代中期末にさかのぼる土器が確認されており、当該時期の遺構は微高地の南北に形成された低地域に分布するものと思われる。後期になると微高地上に分布域を移すが局所的であり、高岡村前遺跡において竪穴住居跡群が確認されたのみである。このような状況を鑑みると、本報告書に掲載した上中居岡東遺跡3で検出された方形周溝墓の存在は当地域の弥生時代像を考える上で貴重な資料となろう。

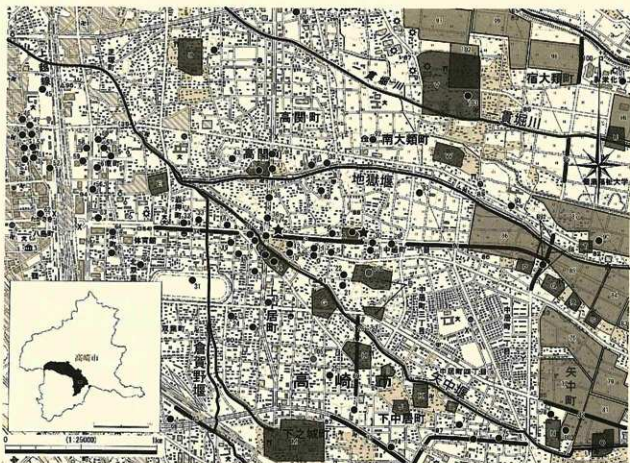
古墳時代になると微高地上を中心に遺構分布数が増加する。前期については、竪穴住居跡群のほかにも方形周溝墓や南東に流下する幹線水路と思われる溝などが確認されている。これらの集落域は時期が下るにつれて規模が縮小していく。上中居辻染師遺跡5では、古墳時代中期頃のものと思われる溝から勾玉・管玉とともに破鏡が出土した。鏡式については上方作浮彫形式の常鏡である可能性が高く、そのルーツや所有者像、そこで行われた行為の意味など多くの課題をはらんだ資料である。古墳に関しては、微高地上の直近では諏訪神社古墳が挙げられ、前期古墳との指摘がある。やや離れるが、東方の柴崎蟹沢古墳は前期に属する古墳で、小円墳ながら青銅鏡を4面所有しており、そのうちの1枚が(正) 始元年銘の刻まれた三角縁神獣鏡であることで著名である。微高地を南方に下った低地域には大型前方後円墳である越後塚古墳が築造されていた。完全に削平されてしまったため詳細不明であるが、南北軸をとることから5世紀以前の古墳との指摘がある。

奈良・平安時代になると集落遺跡の分布は当遺跡東方に位置する柴崎地域へと移行する。本遺跡周辺では竪穴住居跡が確認されているのは上中居辻染師遺跡4次調査くらいであり、その他の遺構としては溝がほとんどである。これらの溝もやはり基本的には南東流するものであり、中でも上中居早道場遺跡と上中居・西原敷遺跡4で確認された溝は大型で、おそらく同一の溝と思われる。当時の水利経営における主要な水路であったと考えられ、後に開削されたと考えられる矢中堰とも近接し、流下方向も同様であることも注目される。また、上中居遺跡群6区Bでは、当域では珍しくA_s-B一次堆積層が確認されており、直下から東西方向の大畦畔が検出されている。報告書でも指摘されている通り、条里制地割にともなう坪境である可能性が高く、実際に1町を109mとして地図上でグリッドを組んだところ、岡久保遺跡で確認された東西の大畦畔がこれに合致した(4町北の坪境)。当地域における古代条里制を検討する上で貴重な発見である。

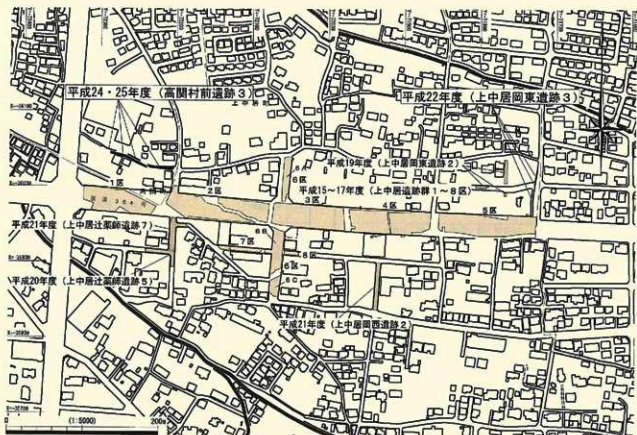
中世以降、当遺跡周辺には長野堰から分水した一貫堀川や矢中堰などの水路が開削され、これらのうち特に矢中堰に沿うように多くの居館が築かれる。これらの城館・居館跡は和田氏配下の武士団が築いたと考えられ、反町城や新堀宮などは矢中堰を縄張の一部に取り込んだ形で設計されている。

第3節 周辺遺跡の過年度調査成果

上中居土地区画整理事業に伴う発掘調査は平成15年度から開始されており、これらの発掘調査報告書として平成20年度に『上中居遺跡群』、平成21年度に『上中居遺跡群2』が刊行されている。本報告書で3冊目となるが、同事業およびこれに伴う発掘調査が昨年度までに終了しているため、本事業に伴う発掘調査報告はこれが最終となる。本報告書および上記2部に所収された遺跡の発掘調査区について第2図に示した。過年度の調査で確認された遺構の連続、あるいは同一と考えられる遺構などは確認されていないが、6区Aでは縄文時代の集石遺構や土坑などが確認されており、高岡村前遺跡3との関連性をうかがわせる。また、過年度の調査では弥生時代の明確な遺構が確認されていないことから、上中居岡東遺跡3の方形周溝墓が持つ特異性が際立っている。



第1図 上中居岡東遺跡3・高橋村前遺跡3周辺遺跡



第2図 上中居土地区画整理事業に伴う発掘調査

第1表 周辺遺跡一覧表①

No.	遺跡名	主な遺構	報告書
1	上中居東園遺跡3次	弥生・周溝墓、近世：溝	本道跡
2	高岡村前遺跡3	縄文・土坑・中世：溝	本道跡
3	上中居遺跡群 (住家跡3次、岡西、岡東)	縄文：灰土・溝、古墳：住居・周溝墓・竪、奈良平安：井戸・水田、中近世：竪・井戸	市教232集
4	上中居東園遺跡2次	古墳：土坑・中近世：溝	市教258集
5	上中居岡西遺跡2次	古墳：溝・井戸、平安：溝、近世：A処理溝・土坑	市教258集
6	上中居岡西遺跡3	縄文：土坑・灰土・竪、古墳：溝、中近世：溝	市教332集
7	上中居辻東側遺跡	中近世：竪・道路状遺構・井戸・土坑墓	市教101集
8	上中居辻東側遺跡	古墳：住居・方形周溝墓・竪・中近世：竪・掘立柱建物・土坑	市教122集
9	上中居辻東側遺跡4次	古墳：住居・土坑、平安：住居	市教258集
10	上中居辻東側遺跡5次	古墳：溝、平安：溝、近現代：溝・井戸・A処理溝・窓枠	市教258集
11	上中居辻東側遺跡6次	古墳：住居・竪穴遺構・溝	市教249集
12	上中居辻東側遺跡7次	古墳：住居・溝、近現代：溝・不明遺構	市教258集
13	上中居西園遺跡	平安：B水田・溝	市調24集
14	上中居西園遺跡2	中近世：溝・井戸	市調59集
15	上中居西園遺跡3	平安：B水田、平安以降：溝	市調70集
16	上中居・西園遺跡4	古墳：土坑、奈良平安：溝、中近世：溝・井戸	市教300集
17	上中居平塚1遺跡	平安：B水田	市調47集
18	上中居平塚2遺跡	平安以降：溝	市調53集
19	上中居平塚遺跡3	平安：B水田、中世：ビット	市教265集
20	上中居早湯遺跡	平安～近世：井戸・溝	市教119集
21	上中居字名東遺跡	古墳：溝、奈良：土坑	市教254集
22	上中居字名東遺跡2	古墳：住居・井戸・溝、近世：井戸・溝	市教376集
23	上中居塚中1遺跡	平安：B水田、中世以降：溝	市調62集
24	上中居塚中遺跡3次	平安：B水田、中近世：溝	市教305集
25	上中居塚中遺跡	平安：B水田、平安以降：土坑	市調66集
26	上中居塚中遺跡	古墳：溝・井戸、中世：溝・掘立・礎石・井戸、中近世：土坑墓	市教327集
27	上中居塚中遺跡2	古墳：溝、平安：B水田、中近世：井戸・溝	市教345集
28	中居町一丁目遺跡	古墳：住居・周溝墓、平安：住居・竪	集事399集
29	中居町一丁目遺跡2	古墳：住居・竪穴・溝、平安：溝、近世：水田	市教265集
30	中居町一丁目遺跡3	縄文：住居、古墳：溝、古墳～平安：溝、平安：B水田	集事309集
31	高崎坂馬場遺跡	遺構なし	市交1-1
32	岩井町1遺跡	平安：B水田・土坑・中近世：溝	市調25集
33	志井町2遺跡	平安：B水田	市調56集
34	志井町遺跡	平安：B水田・溝、中近世：竪・瓦葺屋根	集事529集
35	高岡村橋遺跡	弥生：住居、古墳：住居・周溝墓、奈良平安：住居・溝、中近世：掘立・井戸・溝	市教135集

No.	遺跡名	主な遺構	報告書
36	高岡村前2遺跡	古墳：住居、奈良平安：住居・溝、平安：B水田、中近世：掘立・井戸・基礎・溝	市教135集
37	高岡東沖・村前遺跡	弥生：住居、中近世：掘立・井戸・溝	市教135集
38	高岡東沖2遺跡	平安：B水田	市調52集
39	高岡東沖3遺跡	平安：B水田・竪	市教220集
40	岡久保遺跡	平安：B水田	市教68集
41	高岡塚村遺跡	弥生：溝、中近世：掘立・溝・土坑	市教116集
42	高岡・塚村遺跡2	古墳：住居・溝、奈良平安：住居、中近世：掘立・溝	市教287集
43	高岡高根遺跡	古墳～平安：住居・竪穴・井戸、平安：住居・B水田、中近世：溝・井戸	市教244集
44	江木北土井遺跡	奈良平安：B水田・溝	市教341集
45	江木諏訪西遺跡	古墳：溝、平安：B水田、近世：溝・土坑	市調42集
46	籠崎町遺跡	近世：城郭・木柵墓	集事512集
47	弓町1遺跡	近世：ビット	市教180集
48	真町1遺跡	平安：B水田、近世：水田・建物跡・井戸・溝・礎石・土壇、近世：礎石建物・掘立・溝・塀	市教141集
49	真町2遺跡	古墳：F A水田、近世：堀・溝、近世：建物跡・道路・トイレ・溝	市教162集
50	真町3遺跡	古墳：F A配水路水田、近世：掘溝・溝	市教180集
51	旭町1遺跡	平安：B水田	市教140集
52	旭町2遺跡	平安：B水田、平安以降：遺跡群	市調79集
53	旭町3遺跡	古墳：F A水田、平安：B水田、近世：溝	市教176集
54	旭町4遺跡	古墳：ビット、近世：土坑・ビット	市教180集
55	永町遺跡	平安：B水田	市教98集
56	永町2遺跡	平安：B水田	市教121集
57	永町3遺跡	弥生：溝、弥生～古墳：C水田、平安：B水田	市教130集
58	永町4遺跡	弥生：水路・土坑、古墳～平安：水田、平安：B水田	市教138集
59	永町5遺跡	平安：B水田、近世：水田・A処理溝群、近世：製糸工場跡	市教146集
60	永町6遺跡	平安：B水田	市調78集
61	東町遺跡7	平安：B水田、中世：溝	市教301集
62	八島町遺跡	古墳：水田、平安：水田	市教347集
63	栄町1遺跡	平安：B水田、近世：溝・掘立・溝・礎石	市調43集
64	栄町2遺跡	平安：B水田・溝、中近世：溝・瓦葺屋根	栄町遺跡調査会
65	栄町3遺跡	平安：B水田、近世：A処理溝群	市教187集
66	北双葉町遺跡	平安：B水田、中近世：掘立	市教295集
67	双葉町1遺跡	古墳：住居・溝、平安：B水田、近世：溝・竪穴	市調48集
68	上佐野塚遺跡	平安：B水田、近世：竪・土坑	集事300集
69	下中原天神遺跡1・2	平安：B水田・溝、中近世：井戸・溝	市教296集
70	下中原里遺跡 (八幡前1・2、村西2)	古墳：住居・井戸・溝・C水田、平安：住居・溝・B水田、中世：溝、近世：井戸	市教146集

第2表 周辺遺跡一覧表②

No.	遺跡名	主な遺構	報告書
71	下中宿舎里日遺跡 (八幡前3)	中世: 水田, 北世: 畠跡	市教159集
72	下中宿舎里遺跡	縄文: 住居・土坑, 古墳: 住居・倉庫・土坑, 平安: 住居・溝・石塚跡, 中世: 畠跡	市教183集
73	下之城牟田遺構	平安: 水田・溝, 中世: 堀立	県事1981
74	下之城・村東遺跡3	平安: B水田・溝, 中世世: 溝	市教252集
75	英中村西1遺跡	平安: B水田	市調44集
76	英中遺跡群 (II) (天正跡)	平安: B水田・溝, 平安以降: 溝	市教35集
77	英中遺跡群 (III) (村北A)	平安: B水田・溝, 平安以降: 溝, 中世世: 溝	市教49集
78	英中遺跡群 (IV) (塚前中宿)	平安: 住居・B水田, 中世世: 堀・井戸	市教43集
79	英中遺跡群 (V) (堀前前・村北B)	平安: 住居・井戸・畠石・B水田	市教62集
80	英中遺跡群 (VI) (村北C)	中世: 堀・溝	市調3集
81	久中遺跡群 (IX) (下村北・畠内)	古墳: 古墳, 平安: B水田, 中 遺跡: 堀・土塚・堀立・井戸・ 溝	市教67集
82	英中村北D・下村北E・洞 ノ内遺跡	奈良平安: 包帯・B水田, 中世 世: 溝・井戸	市教173集
83	染向遺跡群 (I) (村岡・富士塚前A)	平安: B水田・水路	市教49集
84	染向遺跡群 (II) (泉原・富士塚・富士塚前B)	平安: B水田・水路	市教62集
85	染向遺跡群 (III) (新堀・佐原・吹手西A・ 富士塚B)	平安: B水田	市教70集
86	染向遺跡群 (IV) (新堀・柳屋・吹手西B)	平安: B水田・水路	市教79集
87	染向遺跡群 (V) (渡谷ノ原・富士塚・集人・ 吹手・峠原)	古墳~平安: 住居	市教92集
88	西浦・吹手西遺跡 (西浦1・吹手西1)	古墳: 方形周溝墓, 平安: 住居・ 溝, 中世世: 堀	市教113集
89	西浦・集人・吹手西遺跡 (染向西浦2・集人2・吹 手西2)	古墳: 方形周溝墓	市教118集
90	染向・集人遺跡3	平安: 聖穴造物, 中世: 水田・ 溝	市教298集
91	染向遺跡群, 南大須遺跡群 (染向西浦1・染向・東原・新堀・ 西浦・西原, 南大須原前)	古墳: 溝, 奈良平安: 住居・溝・ B水田, 中世世: 溝	市教126集
92	南大須中遺跡群	平安: 水田・溝	市教159集
93	南大須原前遺跡	平安: B水田・溝	市調80集
94	南大須村南遺跡2	平安: B水田	市教323集
95	南大須中村・橋方遺跡	縄文: 住居・弥生: 方形周溝墓, 古墳: 住居・奈良平安: 住居・ 堀立・B水田・溝	市教148集
96	高岡信朝日地遺跡	弥生: 住居・堀立・方形周溝墓・ 溝, 古墳: 住居・溝・古墳, 奈良 平安: 住居・堀立・道塔・配 石塚, 平安: B水田, 中世世: 包帯・溝	市調55集
97	南大須遺跡群II (天田II)	奈良平安: 住居, 平安: B水田・ 溝・堀立・井戸・土坑墓	市教48集
98	南大須遺跡群III (山島・天神)	縄文: 住居・土坑, 奈良平安: 堀立・溝・土坑墓・井戸, 平安: 土坑墓・B水田	市教56集
99	南大須遺跡群IV (村北・矢島前・村東)	平安: 住居・B水田, 中世: 堀・ 堀立・聖穴造物・井戸・土坑墓	市教61集
100	南大須遺跡群V (天神丸後遺跡)	平安: 住居・B水田	市教64集

No.	遺跡名	主な遺構	報告書
101	南大須遺跡群VI (万相寺)	縄文~古墳: 住居, 奈良平安: 住居・堀立・平安: B水田, 中 世: 堀立	市教65集
102	南大須遺跡群VII (村西)	縄文~弥生: 住居, 古墳: 住居・ 方形周溝墓, 奈良平安: 住居・ 堀立・井戸, 中世: 堀・井戸	市教75集
103	南大須村西遺跡2	平安: 住居, 中世: 井戸・土坑	市教329集
104	上大須野田遺跡	奈良平安: 水田, 平安: B水田, 近世: 溝	市調35集
105	越後塚古墳	墳丘・前方後円 (100~), 主体: 不明, 時期: 5 c 後半	市史1-1
106	加勢神社古墳	墳丘・円 (20), 主体: 不明, 時期: 不明	
A	丸茂屋敷	時期: 室町, 築造: 丸茂氏	市教258集
B	宇草重隆造遺構	時期: 16 c, 築造: 堀氏等	市史3-1
C	高岡屋敷	時期: 戦国, 築造: 奥田氏	市教116集
D	江木原造遺構	時期: 16 c, 築造: 不明	市史3-1
E	岡田屋敷	時期: 室町か, 築造: 岡田氏	市史3-1
F	反町城	時期: 戦国, 築造: 反町氏	市教101集
G	新堀の寺	時期: 室町, 築造: 不明	市史3-1
H	下中宿舎新屋敷	時期: 16 c, 築造: 新井氏	市教296集
I	高尾屋敷	時期: 戦国, 築造: 高尾佐渡守 か	市史3-1
J	下中宿舎田屋敷	時期: 16 c, 築造: 堀田氏	市史3-1
K	下中宿舎森屋敷	時期: 16 c, 築造: 森氏	市史3-1
L	道場屋敷	不明	市史3-1
M	和山下之塚	時期: 永禄五~六 (1562~ 1565) 頃, 築造: 和木氏	県事1981
N	源原・久中屋敷	時期: 16 c, 築造: 源原内記・ 矢中前左衛門	市史3-1
O	下村北屋敷	時期: 16 c, 築造: 大沢氏・ 松本氏	市教67集
P	染向西浦屋敷	時期: 不明, 築造: 高井氏か	市教113集
Q	高井屋敷	時期: 16 c か, 築造: 高井氏	市史3-1
R	染向保井屋敷	時期: 16 c, 天明六年 (1474), 築造: 保井氏 (保井寺左衛門)	市史3-1
S	光明寺	時期: 室町, 築造: 不明	市史3-1
T	弘人屋敷	時期: 天文年間, 築造: 原康人	市史3-1
U	理ノ福屋敷	時期: 14 c か, 築造: 不明	市史3-1
V	大須城	時期: 戦国, 築造: 和木氏	市教339集
W	大須原	時期: 15 c, 築造: 大須氏	市史3-1

第3章 上中居岡東遺跡3の発掘調査

第1節 発掘調査の方法

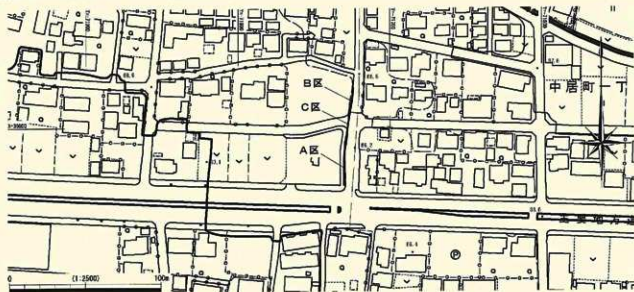
上中居岡東遺跡3の発掘調査は歩道築造に伴う調査であり、南北に細長いトレンチ状の調査区となった。現道により南北に分割されており、さらに現道を切り回す必要があったため、現道南側をさらに二分割して段階的に調査を行った。よって調査着手順にA・B・C区を設定することとなった(第3図)。

詳細は次節に譲るが、遺構検出面として2面を設定している。A区では第1面の調査までを行い、さらに下層に遺構が確認されたが、検出面まで工事掘削が及ばず保護層を確保できるとの回答を得たため、第2面については将来的に幹線道路の築造が決定した場合に改めて調査することとした。B・C区については工事掘削が第2面まで及ぶため調査を行ったが、C区に関しては調査期限が差し迫っていたため第2面のみの調査とした。

表土掘削には重機を用い、A・B区は第1面まで、C区は第2面まで掘削を行った。なお、B区については第1面の調査後、再度重機を用いて第2面までの掘削を行った。表土除去後は人力による遺構確認・遺構掘削作業を行った。遺構記録について、平面図作成に際しては任意の座標を設定して遺構・遺物測量を行い、後に調査区周辺に打たれた測量鈎の座標値から絶対座標(旧測地系)を起こし、世界測地系への変換作業を行った。土層断面図および遺物取上げに際しては、測量鈎に付与された絶対標高を使用した。これらの記録作業は、調査担当者および作業員によって行った。調査中の写真記録については調査担当者が行き、一眼レフカメラを用いて35mmのモノクロフィルムとカラーリバーサルフィルム、補足としてデジタル一眼レフカメラで撮影した。調査終了後には重機を使用して埋戻し作業を行った。

第2節 基本層序

本遺跡は南部ほど標高が高く、北に向かって傾斜する地形となっているが、堆積土層についてはほぼ共通と考えることができる。第4図に調査区南部のA区、調査区北部のB区基本層序をそれぞれ掲載した。第1層は表土層、第II層はA s - A混土層、第III層はA s - B混土層、第IV層はA s - B一次堆積層、第V層は黒色土層、第VI層は黄褐色土層、第VII層は黄色地山土層(いわゆる高崎泥流層)である。遺構検出面として設定したのは第V層上面(第1面)および第VII層上面(第2面)である。これらの土層のうち第IV層のA s - B一次堆積層についてはA区のみで確認されており、B・C区では黒色土上にA s - B混土が堆積しているため、両調査区についてはA s - B下の面は削平されていると考えられる。第VI層は第VII層～第V層間の漸移層である。



第3図 調査区位置図

第3節 第1面の遺構と遺物

第1面において調査を行ったのはA区およびB区である。溝2条、土坑1基、ピット5基が確認された。遺構に伴う出土遺物はほとんどなく、図示できたのは第II層上面より出土した銅銭のみである（第5図）。

1号溝（第5図、第3表、PL-1）

A区で検出した。南北方向に開削されており、軸方向は $N-1^{\circ}-E$ である。長軸2.54m、上幅0.27m、基底幅0.14m、検出面からの深さ0.17mである。覆土はAs-A・B粒を含む灰黄褐色粘質土である。出土遺物はないが、覆土の状況から遺構の所属時期は近世以降と考えられる。

2号溝（第5図、第3表、PL-1）

A区で検出した。南西-北東方向に開削されており、軸方向は $N-2^{\circ}-E$ である。検出長2.70m、検出幅0.12m、検出面からの深さ0.13mである。覆土はAs-A・B粒を含む灰黄褐色粘質土である。出土遺物はないが、覆土の状況から遺構の所属時期は近世以降と考えられる。

1号土坑（第5図、第3表、PL-1）

B区で検出した。平面形は円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.84m、検出面からの深さ0.38mである。覆土は褐灰色砂質土である。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

第4節 第2面の遺構と遺物

第2面において調査を行ったのはB区およびC区である。方形周溝墓1基、竪穴建物跡1軒、溝2条、土坑3基、ピット4基が確認された（第6・7図）。

1号方形周溝墓（第6図、第3表、PL-2）

B区で検出した。周溝のうち東辺のみを確認した。軸方向は $N-8^{\circ}-E$ である。長軸7.97m、上幅0.93m、基底幅0.33m、検出面からの深さ0.56mである。覆土は黒褐色粘質土であり、埋没途中に灰黄色土が主体部側から二度流入している。出土遺物は周溝南東隅から弥生土器の壺（第6図-4）がほぼ完形で出土した。他に縄文土器片が混入している。基底面の高さのまま周溝北辺・南辺には続かず、緩やかに立ち上がることから、東辺の方が深く掘削されていると思われる。出土遺物から遺構の所属時期は弥生時代後期と考えられる。

1号竪穴建物跡（第7図、第3表、PL-2）

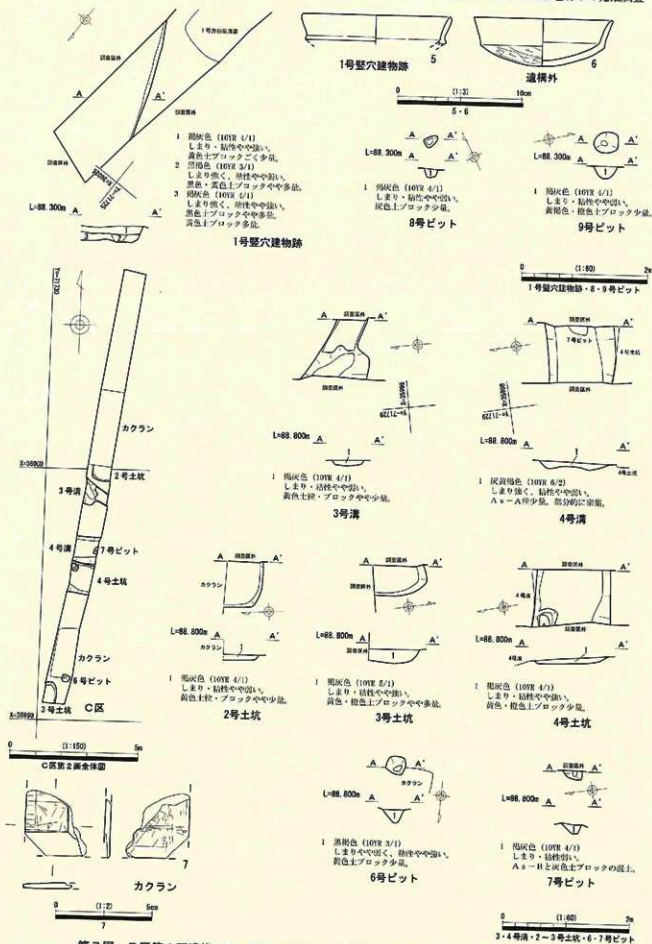
B区で検出した。平面形は方形を呈すると思われる、軸方向は $N-22^{\circ}-W$ である。検出長1.97m、検出幅1.07m、検出面から床面までの深さ0.13m・掘方までの深さ0.26mである。覆土は褐灰色粘質土である。貼床土は黒色土・黄色土ブロックの混土で形成される。カマド・貯蔵穴・支柱穴などの付属遺構は確認されなかった。出土遺物は土師器杯（第7図-5）である。出土遺物から遺構の所属時期は古墳時代後期と考えられる。

3号溝（第7図、第3表、PL-2）

C区で検出した。北西-南東方向に開削されており、軸方向は $N-60^{\circ}-W$ である。検出長1.02m、上幅0.45m、基底幅0.38m、検出面からの深さ0.08mである。覆土は褐灰色土である。覆土中には出土遺物や明確な軽石粒はないが、調査区壁の観察により第VI層上から掘削されており、遺構の所属時期は古代以前と考えられる。

4号溝（第7図、第3表、PL-2・3）

C区で検出した。東西方向に開削されており、軸方向は $N-82^{\circ}-W$ である。検出長0.95m、上幅1.07m、基底幅0.78m、検出面からの深さ0.13mである。7号ピットを切る。覆土にAs-A粒を含む。出土遺物はないが、覆土の状況から遺構の所属時期は近世以降と考えられる。



第7図 B区第2面遺構平面・断面・遺物図、C区第2面全体・遺構平面・断面・遺物図

2号土坑(第7図、第3表、PL-2)

C区で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、検出長0.75m、検出幅0.60m、検出面からの深さ0.10mである。覆土は褐灰色土である。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

3号土坑(第7図、第3表、PL-3)

C区で検出した。平面形は楕円形を呈し、検出長0.85m、検出幅0.49m、検出面からの深さ0.21mである。覆土は褐灰色砂質土であり、黄色地山土ブロックを多く含む。覆土中には出土遺物や明確な軽石粒はないが、調査区壁の観察により第V層上から掘削されており、遺構の所属時期は古代以前と考えられる。

4号土坑(第7図、第3表、PL-3)

C区で検出した。平面形は方形を呈し検出長1.2m、検出幅0.93m、検出面からの深さ0.13mである。覆土は褐灰色粘質土である。覆土中には出土遺物や明確な軽石粒はないが、調査区壁の観察により第VI層上から掘削されており、遺構の所属時期は古代以前と考えられる。

第3表 検出遺構一覧表

名称	版区	調査区	位置		長(m)	短径(m)	深さ(m)	軸方向	遺物	時期	特記事項
			X座標	Y座標							
1号方形周溝	第6図 PL2	B区2面	30020	-71725	7.97	0.93	0.50	N-8°-E	弥生土器類 陶文土器類	弥生時代後葉	
1号竪穴建物跡	第7図 PL2	B区2面	35026	-71724	(1.97)	(1.07)	0.26	N-22°-E	弥生土器類 土師器類・坏	古墳時代後葉	
1号溝	第5図 PL1	A区1面	35965	-71730	2.84	0.27	0.17	S-1°-E	なし	近世以降	
2号溝	第5図 PL1	A区1面	35965	-71731	(2.70)	(0.12)	0.13	S-2°-E	なし	近世以降	
3号溝	第7図 PL2	C区2面	35999	-71728	(1.02)	0.45	0.08	N-60°-W	なし	古代以前	第V層上面より掘削
4号溝	第7図 PL2・PL3	C区2面	35997	-71728	(0.96)	1.07	0.13	N-62°-W	なし	近世以降	7号ピットを切る
1号土坑	第5図 PL1	B区1面	36012	-71720	0.94	0.84	0.38	N-2°-E	なし	不明	
2号土坑	第7図 PL2	C区2面	36000	-71728	(0.75)	(0.60)	0.10	N-3°-E	なし	不明	
3号土坑	第7図 PL3	C区2面	35991	-71729	(0.85)	(0.49)	0.21	N-8°-W	なし	古代以前	第V層上面より掘削
4号土坑	第7図 PL3	C区2面	35996	-71728	(1.20)	(0.93)	0.13	S-7°-E	なし	古代以前	第V層上面より掘削
1号ピット	第6図	A区1面	35975	-71730	0.49	0.38	0.50	S-1°-E	土器片	Aa-B葉	
2号ピット	第6図	B区1面	36023	-71725	(0.55)	(0.29)	0.11	N-7°-E	なし	近世以降	第II層上面より掘削
3号ピット	第6図	B区1面	36019	-71725	(0.65)	(0.45)	0.31	N-8°-E	なし	近世以降	
4号ピット	第5図	B区1面	36017	-71725	(0.51)	(0.20)	0.24	N-9°-E	なし	Aa-B以前	第IV層上面より掘削
5号ピット	第5図	B区1面	36008	-71727	0.42	(0.37)	0.54	N-75°-W	なし	近世以降	
6号ピット	第7図	C区2面	35992	-71729	0.31	0.27	0.20	N-40°-W	なし	不明	
7号ピット	第7図	C区2面	36097	-71728	(0.29)	(0.14)	0.18	N-8°-E	なし	Aa-B葉	4号溝に知られる
8号ピット	第7図	B区2面	36015	-71725	0.22	0.14	0.15	S-96°-E	なし	不明	
9号ピット	第7図	B区2面	36011	-71727	0.38	0.33	0.20	S-13°-E	なし	不明	

第4表 出土遺物観察表

番号	図版	出土地	器種	法長(cm)		測定・書文		色調	胎土・石材	残存	備考
				口徑	器高	外径	内径				
1	第5図 PL3	A区1号土坑	射野品 須賀	直径 2.7	-	-	-	-	-	完形	3.52g 文久永住
2	第9図 PL3	A区竪穴建物跡	土師器 甕	-	(1.7)	5.2	タテハケ	ナデ	明色胎 5YR 5/6	長石、茶色粒	底面1/6
3	第5図 PL3	B区1号方形周溝	陶文土器 須賀	-	(4.1)	-	地帯による文様区別。 器面単独のための 施文文様不明。	にぶい 7.5YR 7/4	長石、角閃石、 茶・黒色粒	割断破片	中腹後半
4	第6図 PL2・PL3	B区1号方形周溝	弥生土器 甕	15.8	42.3	9.5	ナデ後へウミガキ 口縁：射野品状文。 器底：射野品状文。 長文・新橋品状文	ナデ後へウミガキ 有	浅黄胎 7.5YR 8/6	長石、黒・茶色 粒	口縁部～底 部2/3
5	第7図 PL3	B区1号竪穴建物跡	土師器 甕	11.6	(2.3)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	黒胎 10YR 3/1	白・黒色粒	口縁部1/8
6	第7図 PL3	B区遺構外	土師器 甕	11.0	(3.8)	-	口縁ヨコナデ。 体部ヘラケズリ	口縁ヨコナデ。 体部ナデ	黄 5YR 7/6	白・茶色粒	口縁部～底 部1/4強
7	第7図 PL3	C区カクラン	射野品 射野品製須賀品	タテ 13.5	ヨコ 13.2	厚さ 0.3	-	-	-	緑質片岩	破片 4.96g

第4章 高関村前遺跡3の発掘調査

第1節 発掘調査の方法

高関村前遺跡3の発掘調査は道路築造に伴う調査である。調査予定地内に既設道路部分や用水路が設置されていたため、これらの範囲は調査除外とした。また、既設道路の北側にあたる幅1mほどの範囲について、上下水道撤去時に立会調査を行ったが、遺構遺物が残存しておらず、こちらも調査除外とした(第9図)。

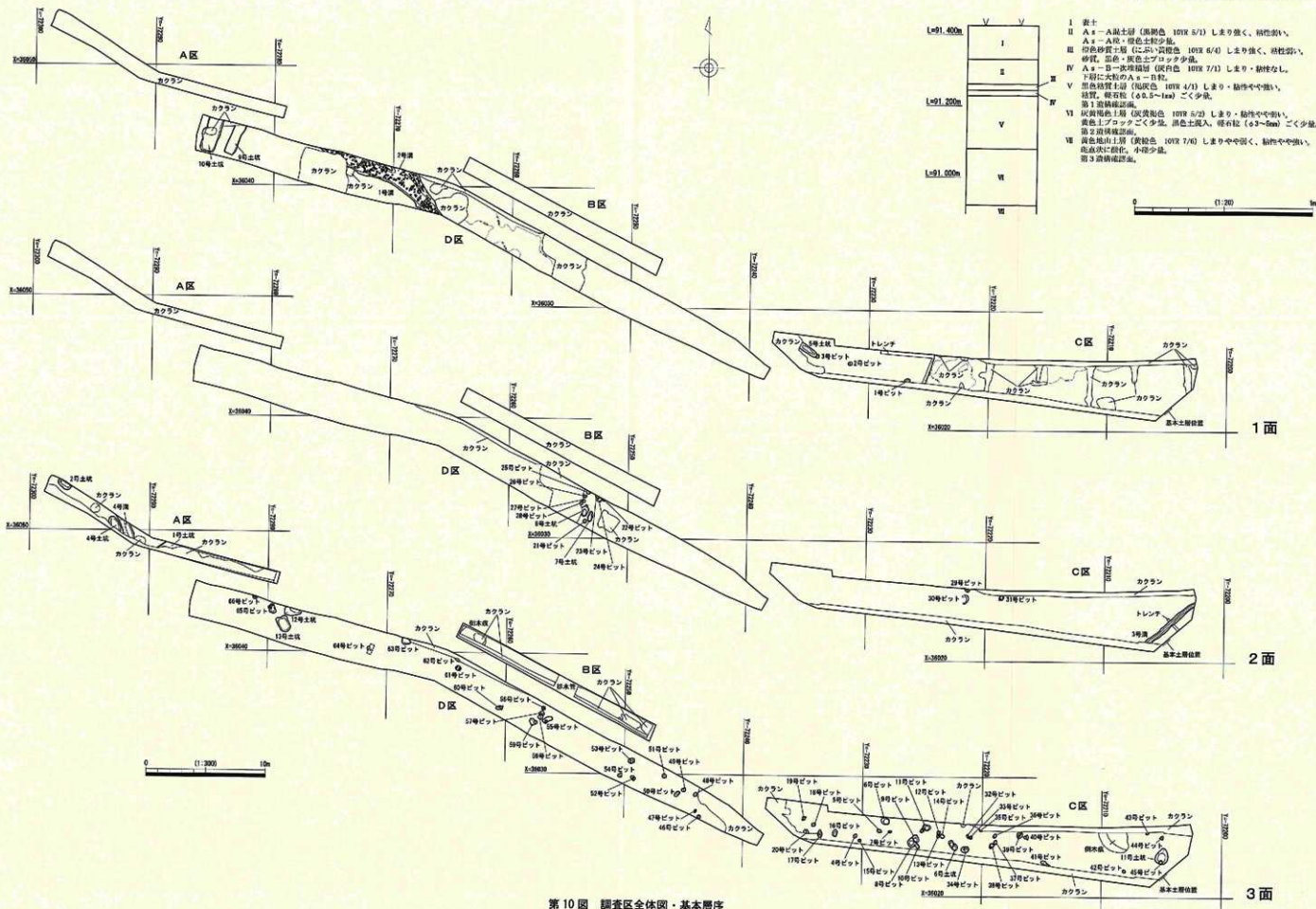
調査工程については、用水路が調査区中央に位置していることと、解体作業中の建造物がかかっていたことから、調査区を4区画(A～D区)に分けることになった(第8図)。また、調査区両隣に建造物が接する箇所が多く重機搬入・搬出に制限が生じたため、C・D区についてはさらに東西に分割し、C区については反転調査を行った。調査順序は、A・B区→C区西半・D区東半→C区東半・D区西半である。なお、A区とB区の間は建造物解体終了後に行う予定であったが、両調査区とも深く攪乱が及んでおり、同様の状況が推定されるため調査除外とした。

遺構検出面は3面を設定したが、全調査区で各調査面をそろえることができなかった。第1面はC・D区、第2面はC区東部・D区東部、第3面は全調査区で検出した。A・B区については用水路施設時の掘削により上層が破壊されていたため第3面の調査のみとなった。各調査面についての詳細は次節を参照されたい。

表土掘削には重機を用い、A・B区は第3面まで、C・D区は第1面まで掘削を行った。表土除去後は人力による遺構確認・遺構掘削作業を行った。なお、C・D区については第1面の調査後、部分的に第2面を調査しつつ第3面まで人力で包含層のグリッド掘削を行った。グリッド設定については、北西—南東方向に調査区の中心軸を設定し、これをもとに1.5mを基準としたグリッドを設定した(第21図参照)。遺構記録について、平面図作成に際しては旧測地系に基づいた座標および絶対標高を付した基準杭を設定し、これを使用して遺構・遺物測量を行った。なお、報告書作成段階に世界測地系への変換作業を行った。これらの記録作業は、調査担当者および作業員によって行った。調査中の写真記録については調査担当者が行い、一眼レフカメラを用いて35mmのモノクロフィルムとカラーリバーサルフィルム、補足としてデジタル一眼レフカメラで撮影した。調査終了後には重機を使用して埋戻し作業を行った。

第2節 基本層序

本遺跡は北西から南東方向へと緩やかに傾斜する地形を呈するが、基本層序については大きく攪乱を受けていたA・B区を除いて共通の土層堆積状況を呈しており、柱状図を第10図に示した。第I層は表土層、第II層はA s—A 軽石混土層、第III層は橙色砂質土層、第IV層はA s—B 一次堆積層、第V層は黒色粘質土層、第VI層は灰黄褐色土層、第VII層は黄色地山土層(いわゆる高崎泥流層)である。遺構検出面として設定したのは第V層上面(第1面)、第VI層上面(第2面)、第VII層上面(第3面)である。C・D区については上記の土層が全体的に堆積しているが、A・B区については攪乱により第VII層まで削平されており、第3面での遺構確認のみとなった。なお、A・B区の第3面は表面が掘削を受けており、C・D区で検出した第3面より下層にあたる。第V・VI層は縄文土器片を多数含む包含層であり、これら2層を対象としてグリッド調査を行った。



第3節 第1面の遺構と遺物

第1面において調査を行ったのはC・D区である。基本的には全域にA s - B一次堆積層(第IV層)が堆積しているが、C区西部およびD区東部については削平を受けていたため第V層の下層付近での遺構検出となった。溝2条、土坑3基、ピット3基が確認された(第11・12図)。第IV層直下に遺構は確認されなかった。なお、調査工程の都合上、各調査区を同一遺構面でそろえることができなかつたため、遺構番号が前後することを断っておく(次節以降も同様)。

1号溝(第12図、第5表、P L - 5)

D区で検出した。北西-南東方向に開削されており、軸方向はN - 63° - Wである。検出長11.1 m、上幅1.26 m、基底幅0.83 m、検出面からの深さ0.4 mである。2号溝を切る。覆土は砂質土・砂層から成り、互層状に堆積している。底面および法面には無数の掘削痕が残る。出土遺物は縄文土器小片である。第IV層以降に掘削されており、遺構の所属時期はA s - B降下以降と考えられる。

2号溝(第12図、第5表、P L - 5)

D区で検出した。北西-南東方向に開削されており、軸方向はN - 39° - Wである。検出長1.92 m、上幅1.6 m、基底幅0.55 m、検出面からの深さ0.38 mである。1号溝に切られる。覆土は砂質土・砂層から成り、互層状に堆積している。底面および法面には無数の掘削痕が残る。東側の中位には平坦面が形成される。出土遺物は土器器破片である。第IV層以降に掘削されており、遺構の所属時期はA s - B降下以降と考えられる。

5号土坑(第11図、第5表、P L - 5)

C区で検出した。平面形は長楕円形を呈し、検出長1.59 m、短軸0.55 m、検出面からの深さ0.23 mである。3号ピットを切る。覆土は砂質土・砂層から成り、互層状に堆積している。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明であるが、覆土の堆積状況は1号溝と類似しており、近い時期の可能性はある。

9号土坑(第12図、第5表、P L - 5)

D区で検出した。平面形は長方形を呈し、検出長2.71 m、短軸0.93 m、検出面からの深さ0.16 mである。覆土はA s - B粒を含む黄褐色砂質土で、黒色土ブロックを多量に含む。出土遺物は土器器破片である。覆土の状況から遺構の所属時期はA s - B降下以降と考えられる。

10号土坑(第12図、第5表、P L - 5)

D区で検出した。平面形は長方形を呈し、検出長2.83 m、短軸1.49 m、検出面からの深さ0.27 mである。覆土にA s - B粒を含む。出土遺物はないが、覆土の状況から遺構の所属時期はA s - B降下以降と考えられる。

第4節 第2面の遺構と遺物

第2面において調査を行ったのはC区東半およびD区東部である。グリッド掘削中に第VI層上面で遺構が確認できた箇所についての調査を行った。溝1条、土坑2基、ピット11基が確認された(第13・14図)。

3号溝(第13図、第5表、P L - 5)

C区で検出した。南西-北東方向に開削されており、軸方向はN - 50° - Eである。検出長5.08 m、上幅0.5 m、基底幅0.16 m、検出面からの深さ0.13 mである。覆土は黒色土である。出土遺物は縄文土器深鉢(第13図-1)である。出土遺物から遺構の所属時期は縄文時代中期後半頃と考えられる。

7号土坑(第14図、第5表、P L - 5)

D区で検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、長軸0.86 m、短軸0.36 m、検出面からの深さ0.15 mである。覆土は褐色土上である。底面に礫および石製品がままとまっていた。出土遺物は磨石・台石(第14図-2・3)である。覆土中に明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

8号土坑 (第14図、第5表)

D区で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸0.99m、短軸0.59m、検出面からの深さ0.16mである。覆土は褐灰色土である。出土遺物は縄文土器深鉢片である。出土遺物から遺構の所属時期は縄文時代中期後半頃と考えられる。

第5節 第3面の遺構と遺物

第3面(第VII層上面)については全調査区で調査を行った。B区は遺構が皆無であった。溝1条、土坑7基、ピット52基が確認された(第15~19図)。

4号溝 (第15図、第5表、PL-6)

A区で検出した。南北方向に開削されており、軸方向はN-20°-Wである。検出長1.66m、上幅0.75m、基底幅0.36m、検出面からの深さ0.18mである。覆土は褐灰色粘質土である。出土遺物がなく、覆土中に明確な軽石粒もないことから、遺構の所属時期は不明である。

1号土坑 (第15図、第5表)

A区で検出した。平面形は方形を呈し、検出長0.94m、検出幅0.72m、検出面からの深さ0.11mである。覆土は褐灰色土である。出土遺物はない。覆土にAs-B粒が含まれないことから、遺構の所属時期はAs-B降下以前と考えられる。

2号土坑 (第15図、第5表、PL-6)

A区で検出した。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.2m、検出幅0.55m、検出面からの深さ0.4mである。覆土は砂質・細砂質土から成る。出土遺物がなく、覆土中に明確な軽石粒もないことから、遺構の所属時期は不明である。

4号土坑 (第15図、第5表、PL-6)

A区で検出した。平面形は長楕円形を呈し、検出長1.54m、検出幅0.71m、検出面からの深さ0.23mである。覆土は灰黄褐色土であり、黄色地山土ブロックを多量に含む。出土遺物がなく、覆土中に明確な軽石粒もないことから、遺構の所属時期は不明である。

6号土坑 (第16図、第5表)

C区で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、長軸0.93m、短軸0.37m、検出面からの深さ0.24mである。覆土は黒褐色土である。出土遺物は縄文土器深鉢片(第16図-4)である。覆土中に明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

11号土坑 (第16図、第5表、PL-7)

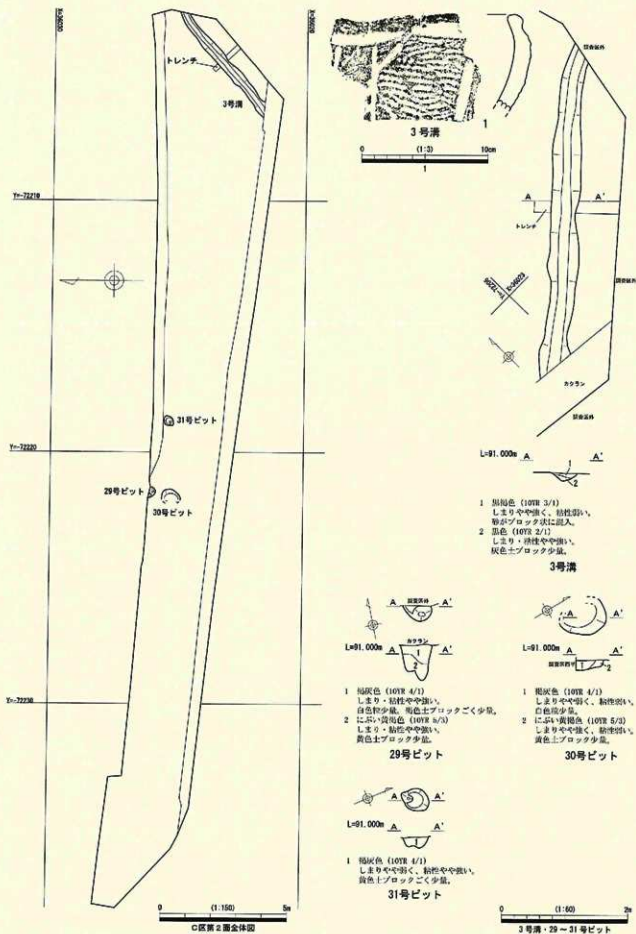
C区で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸1.38m、短軸1.04m、検出面からの深さ0.21mである。45号ピットに切られる。覆土は褐灰色土である。出土遺物がなく、覆土中に明確な軽石粒もないことから、遺構の所属時期は不明である。

12号土坑 (第18図、第5表)

D区で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸1.41m、検出幅0.63m、検出面からの深さ0.36mである。覆土は灰黄褐色粘質土である。出土遺物は縄文土器深鉢片である。覆土中に明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

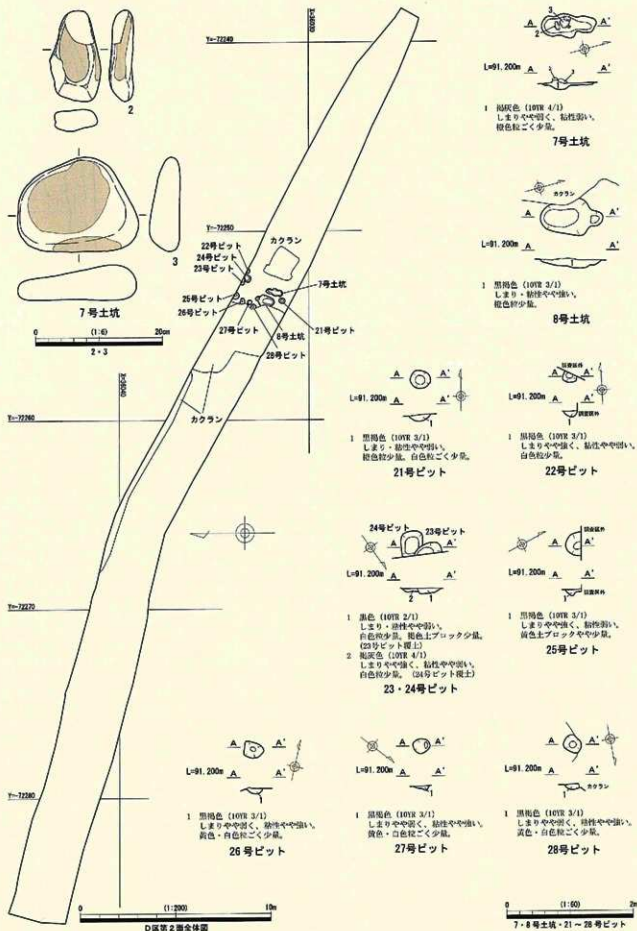
13号土坑 (第18図、第5表)

D区で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.29m、短軸0.94m、検出面からの深さ0.12mである。覆土は褐灰色粘質土である。出土遺物がなく、覆土中に明確な軽石粒もないことから、遺構の所属時期は不明である。

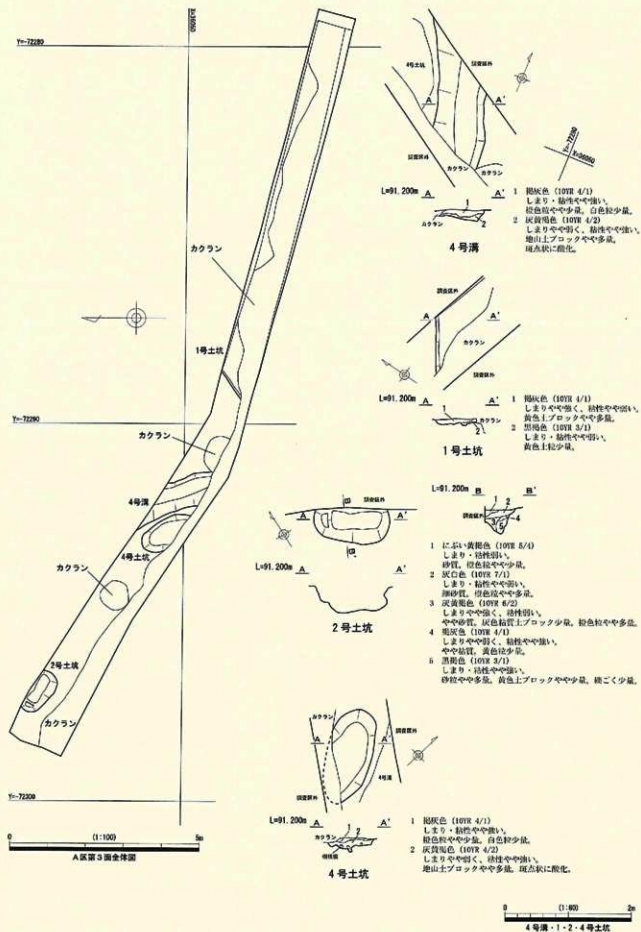


第13図 C区第2面全体・遺構平面・断面・遺物図

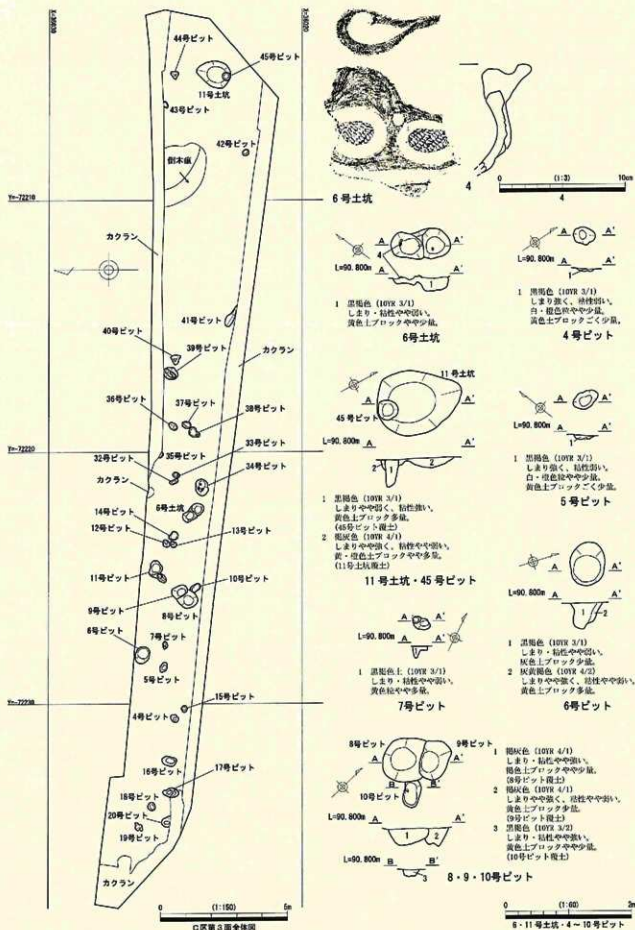
第4章 高岡村前遺跡3の発掘調査



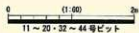
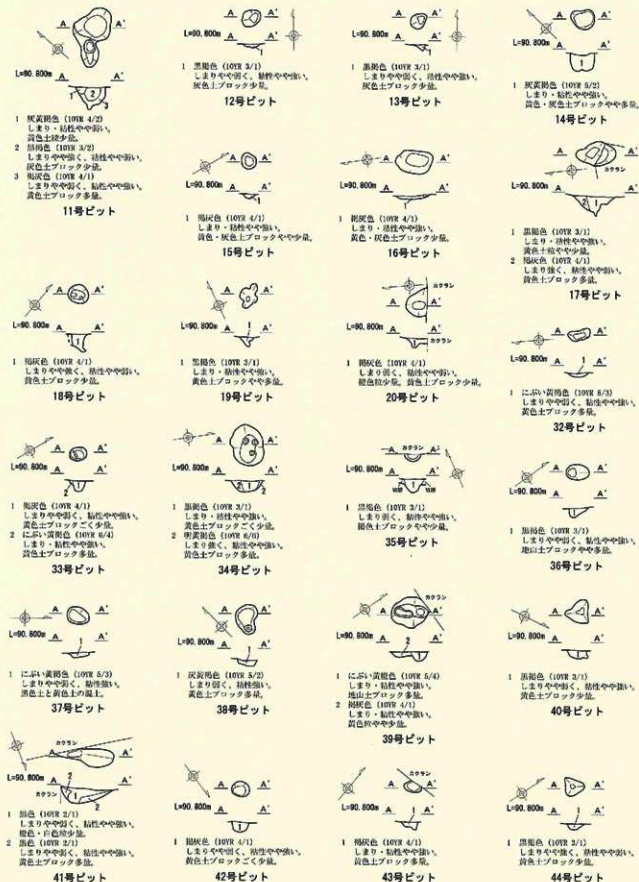
第14図 D区第2面全体・遺構平面・断面・遺物図



第15図 A区第3面全体・遺構平面・断面図

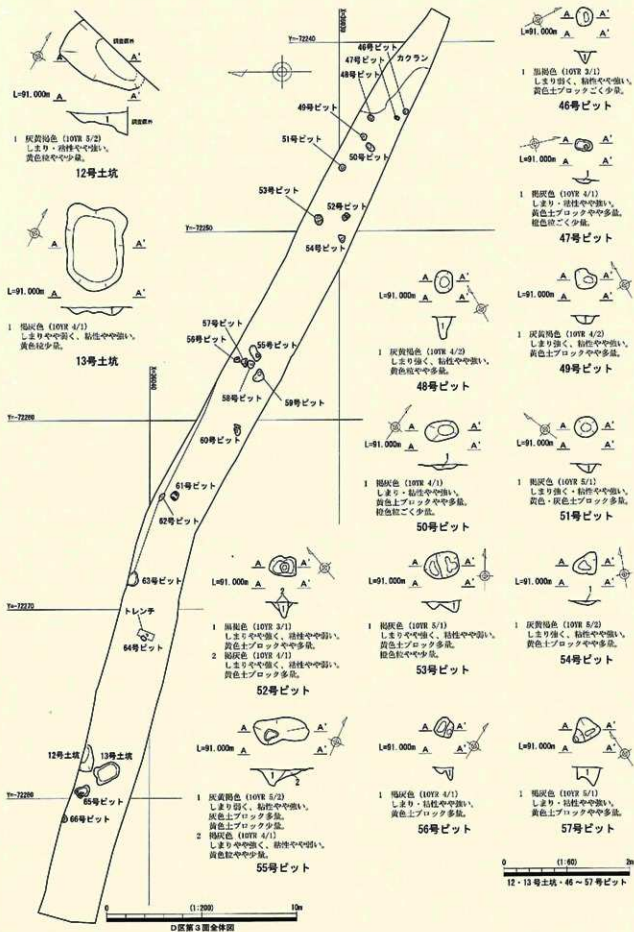


第16図 C区第3面全体・遺構平面・断面・遺物図

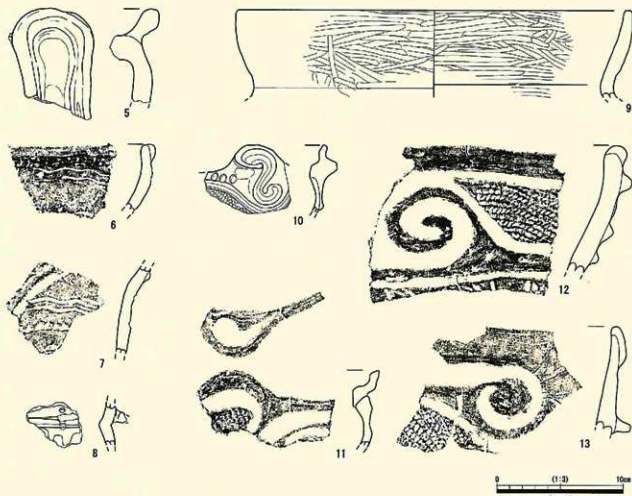
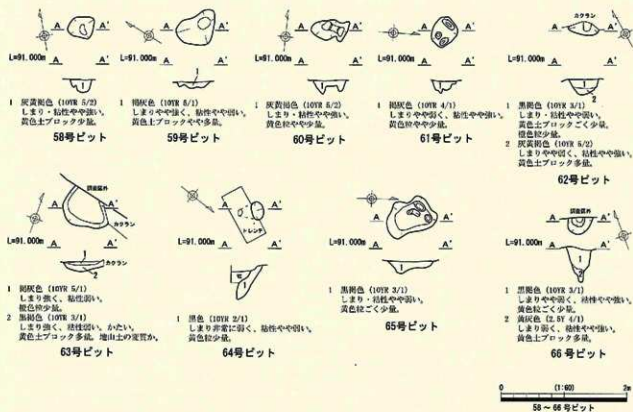


第17図 C区第3面遺構平面・断面図

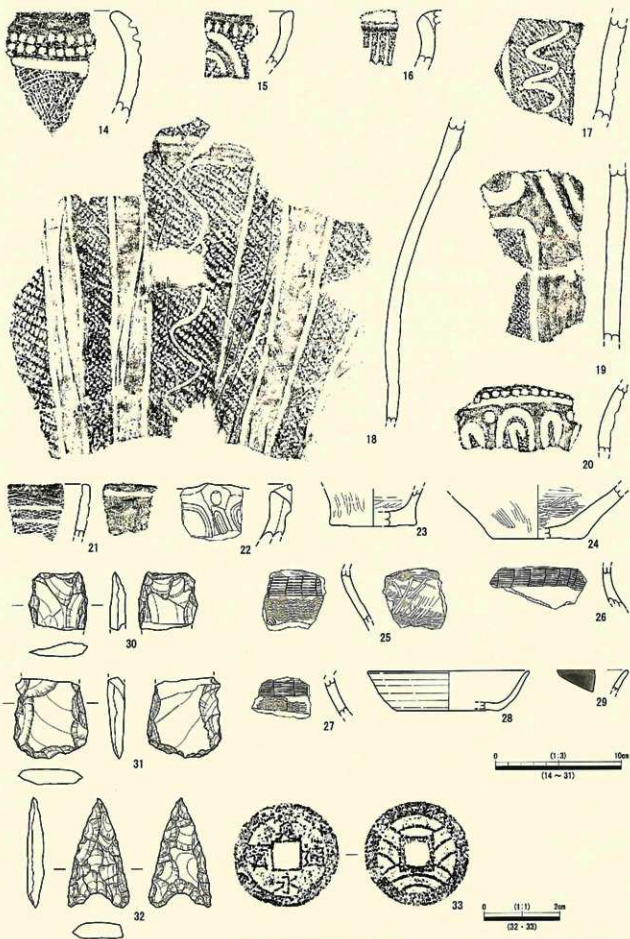
第4章 高岡村前遺跡3の発掘調査



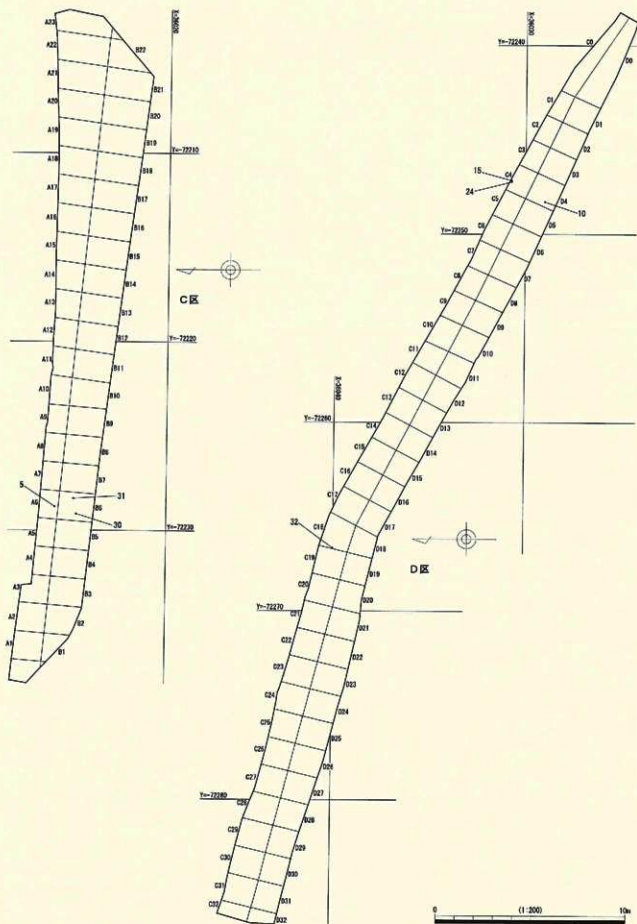
第18図 D区第3面全体・遺構平面・断面図



第19図 D区第3面遺構平面・断面図、C・D区遺構外遺物図

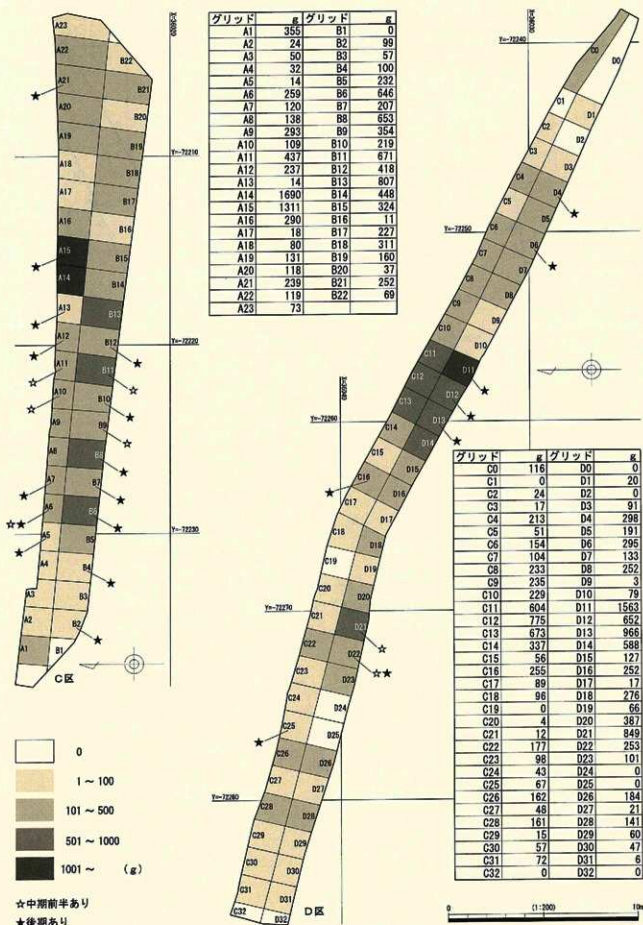


第20図 C・D区遺構外遺物図



第21図 C・D区遺構外遺物出土分布図

第4章 高関村前遺跡3の発掘調査



第22図 C・D区グリッド別縄文土器出土分布図

第5表 検出遺構一覧表①

名称	調査区	調査区	位置		長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	軸方向	遺物	時期	特記事項
			X座標	Y座標							
1号溝	第12区 PL5	D区1面	36041	-72271	(1.1, 1)	1.26	0.40	N-63°-E	縄文土器陶片	Aa-B後	第IV遺構以降掘削、2号溝を切る 5号土坑と覆土層
2号溝	第12区 PL5	D区1面	36049	-72268	(1.92)	1.60	0.38	N-39°-E	土師器壺	Aa-B後	第IV遺構以降掘削、1号溝に切られる
3号溝	第13区 PL5	C区2面	36023	-72295	(0.98)	0.50	0.13	N-50°-E	縄文土器陶片	縄文時代中期後半	VI層上面より掘削
4号溝	第16区 PL6	A区3面	36050	-72292	(1.60)	0.75	0.18	N-20°-E	なし	不明	4号土坑と覆土層、3号土坑
1号土坑	第15区 PL5	A区3面	36049	-72268	(0.94)	(0.72)	0.11	N-55°-E	なし	Aa-B以前	
2号土坑	第15区 PL6	A区3面	36054	-72297	1.20	(0.55)	0.40	N-58°-E	なし	不明	
3号土坑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4号溝に変更
4号土坑	第18区 PL6	A区3面	36056	-72293	(1.54)	(0.71)	0.23	N-32°-E	なし	不明	4号溝と覆土層
5号土坑	第11区 PL5	C区1面	36026	-72235	(1.59)	0.55	0.23	N-39°-E	なし	不明	1号溝と覆土層、3号ビットを切る
6号土坑	第16区	C区3面	36024	-72222	0.93	0.37	0.24	N-36°-E	縄文土器陶片	不明	
7号土坑	第14区 PL5	D区2面	36032	-72233	0.80	0.38	0.15	N-15°-E	台形石	不明	
8号土坑	第14区	D区2面	36032	-72254	0.99	0.59	0.16	N-10°-E	縄文土器陶片	縄文時代中期後半	
9号土坑	第12区 PL5	D区1面	36044	-72283	(2.71)	0.93	0.16	N-21°-E	土師器壺	Aa-B後	
10号土坑	第12区 PL5	D区1面	36044	-72285	(2.83)	1.49	0.27	N-18°-E	なし	Aa-B後	
11号土坑	第16区 PL7	C区3面	36023	-72295	1.38	1.04	0.21	N-14°-E	なし	不明	45号ビットに切られる
12号土坑	第18区	D区3面	36043	-72276	1.41	(0.83)	0.36	N-82°-E	縄文土器陶片	不明	
13号土坑	第18区	D区3面	36042	-72279	1.29	0.91	0.12	N-26°-E	なし	不明	
1号ビット	第11区	C区1面	36024	-72227	0.49	(0.31)	0.36	N-80°-E	なし	Aa-B以前	3号ビットと覆土層
2号ビット	第11区	C区1面	36026	-72232	0.35	0.28	0.11	N-87°-E	縄文土器陶片	Aa-B以前	
3号ビット	第11区	C区1面	36026	-72234	0.33	0.30	0.19	N-19°-E	黒色安山岩割片	Aa-B以前	1号ビットと覆土層、5号土坑に切られる
4号ビット	第16区	C区3面	36025	-72231	0.34	0.27	0.08	N-34°-E	なし	不明	5号ビットと覆土層
5号ビット	第16区	C区3面	36025	-72229	0.40	0.27	0.06	N-62°-E	なし	不明	4号ビットと覆土層
6号ビット	第16区	C区3面	36026	-72228	0.69	0.54	0.41	N-67°-E	土師器壺	古墳時代以降	
7号ビット	第16区	C区3面	36025	-72228	0.30	0.20	0.18	N-85°-E	なし	不明	
8号ビット	第16区	C区3面	36024	-72226	0.83	(0.73)	0.27	N-43°-E	なし	不明	9号・10号ビットを切る
9号ビット	第16区	C区3面	36025	-72226	0.82	0.45	0.30	N-44°-E	なし	不明	8号ビットに切られる
10号ビット	第16区	C区3面	36024	-72225	(0.95)	0.25	0.10	N-34°-E	土師器壺	古墳時代以降	8号ビットに切られる
11号ビット	第17区	C区3面	36026	-72225	0.83	0.59	0.36	N-42°-E	なし	不明	
12号ビット	第17区	C区3面	36025	-72224	0.30	0.25	0.06	N-45°-E	なし	不明	13号ビットと覆土層
13号ビット	第17区	C区3面	36025	-72224	0.24	0.23	0.09	N-54°-E	なし	不明	12号ビットと覆土層
14号ビット	第17区	C区3面	36025	-72223	0.37	0.30	0.27	N-44°-E	なし	不明	
15号ビット	第17区	C区3面	36025	-72230	0.26	0.23	0.07	N-79°-E	なし	不明	16号ビットと覆土層
16号ビット	第17区	C区3面	36025	-72232	0.69	0.36	0.07	N-9°-E	なし	不明	15号ビットと覆土層
17号ビット	第17区	C区3面	36025	-72233	0.64	0.38	0.33	N-8°-E	なし	不明	
18号ビット	第17区	C区3面	36026	-72234	0.32	0.30	0.27	N-51°-E	なし	不明	
19号ビット	第17区	C区3面	36026	-72235	0.41	0.27	0.15	N-48°-E	なし	不明	
20号ビット	第17区	C区3面	36025	-72235	(0.45)	(0.33)	0.15	N-19°-E	なし	不明	
21号ビット	第14区	D区2面	36031	-72264	0.32	0.29	0.11	N-89°-E	土師器壺	Aa-B以前	
22号ビット	第14区	D区2面	36033	-72262	0.22	(0.15)	0.10	N-80°-E	なし	Aa-B以前	第VI層上面より掘削
23号ビット	第14区	D区2面	36033	-72262	(0.42)	(0.16)	0.08	N-70°-E	なし	Aa-B以前	第VI層上面より掘削、24号ビットを切る
24号ビット	第14区	D区2面	36033	-72262	(0.39)	0.33	0.06	N-36°-E	なし	Aa-B以前	第VI層上面より掘削、25号ビットに切られる
25号ビット	第14区	D区2面	36034	-72265	(0.37)	(0.24)	0.09	N-28°-E	縄文土器陶片	Aa-B以前	第VI層上面より掘削

第6表 検出遺構一覧表②

名称	図号	調査区	位置		長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	軸方向	遺物	時期	特記事項
			X座標	Y座標							
26号ピット	第14図	D区2面	36033	-72254	0.29	0.25	0.10	N-82°-E	縄文土器断片	As-B以前	
27号ピット	第14図	D区2面	36033	-72254	0.26	0.23	0.07	N-36°-E	なし	As-B以前	
28号ピット	第14図	D区2面	36033	-72254	0.28	0.27	0.09	N-60°-E	弥生土器断片	As-B以前	
29号ピット	第13図	C区2面	36026	-72222	(0.36)	(0.36)	0.67	N-31°-E	なし	As-B以前	第V層上面より掘削
30号ピット	第13図	C区2面	36025	-72222	(0.75)	(0.43)	0.15	N-32°-E	なし	As-B以前	
31号ピット	第13図	C区2部	36025	-72219	0.46	0.35	0.18	N-55°-E	なし	As-B以前	
32号ピット	第17図	C区3面	36025	-72221	0.35	0.16	0.07	N-5°-E	なし	不明	
33号ピット	第17図	C区3面	36025	-72221	0.27	0.21	0.17	N-15°-E	なし	不明	
34号ピット	第17図	C区3面	36024	-72221	0.63	0.51	0.18	N-68°-E	なし	不明	
35号ピット	第17図	C区3面	36025	-72220	(0.25)	(0.11)	0.21	N-65°-E	なし	As-B以前	第VI層上面より掘削
36号ピット	第17図	C区3面	36025	-72219	0.36	0.24	0.14	N-36°-E	なし	不明	
37号ピット	第17図	C区3面	36025	-72219	0.34	0.26	0.08	N-37°-E	なし	不明	
38号ピット	第17図	C区3面	36024	-72219	0.47	0.34	0.11	N-32°-E	なし	不明	
39号ピット	第17図	C区3面	36025	-72217	(0.61)	0.49	0.15	N-36°-E	なし	不明	
40号ピット	第17図	C区3面	36025	-72216	0.37	0.36	0.13	N-85°-E	なし	不明	
41号ピット	第17図	C区3面	36023	-72215	(0.91)	0.29	0.27	N-62°-E	なし	不明	
42号ピット	第17図	C区3面	36022	-72208	0.28	0.24	0.17	N-55°-E	なし	不明	
43号ピット	第17図	C区3面	36025	-72206	0.27	(0.18)	0.12	N-51°-E	なし	不明	
44号ピット	第17図	C区3面	36025	-72205	0.30	0.28	0.09	N-34°-E	なし	不明	
45号ピット	第18図 PL7	C区3面	36023	-72205	0.32	0.31	0.43	N-28°-E	なし	不明	11号土坑を切る
46号ピット	第18図	D区3面	36027	-72244	0.29	0.26	0.19	N-76°-E	なし	不明	
47号ピット	第18図	D区3面	36027	-72244	0.27	0.17	0.06	N-23°-E	なし	不明	50号ピットと覆土取る
48号ピット	第18図	D区3面	36028	-72244	0.35	0.28	0.35	N-32°-E	なし	不明	
49号ピット	第18図	D区3面	36029	-72245	0.33	0.32	0.13	N-15°-E	なし	不明	54号ピットと覆土取る
50号ピット	第18図	D区3面	36028	-72246	0.52	0.31	0.07	N-55°-E	なし	不明	47号ピットと覆土取る
51号ピット	第18図	D区3面	36030	-72247	0.36	0.33	0.14	N-37°-E	なし	不明	
52号ピット	第18図	D区3面	36030	-72249	0.42	0.31	0.25	N-49°-E	なし	不明	
53号ピット	第18図	D区3面	36031	-72249	0.54	0.40	0.18	N-60°-E	なし	不明	
54号ピット	第18図	D区3面	36030	-72250	0.36	0.36	0.07	N-40°-E	なし	不明	49号ピットと覆土取る
55号ピット	第18図 PL7	D区3面	36031	-72256	0.66	0.30	0.27	N-68°-E	なし	不明	
56号ピット	第18図 PL7	D区3面	36035	-72257	0.31	0.29	0.20	N-59°-E	なし	不明	57号ピットと覆土取る
57号ピット	第18図 PL7	D区3面	36035	-72257	0.38	0.37	0.30	N-78°-E	なし	不明	56号ピットと覆土取る
58号ピット	第19図 PL7	D区3面	36035	-72257	0.39	0.34	0.21	N-79°-E	なし	不明	
59号ピット	第19図 PL7	D区3面	36034	-72258	0.58	0.54	0.11	N-78°-E	なし	不明	
60号ピット	第19図	D区3面	36035	-72260	0.88	0.30	0.22	N-84°-E	なし	不明	
61号ピット	第19図	D区3面	36039	-72264	0.47	0.41	0.21	N-60°-E	なし	不明	
62号ピット	第19図	D区3面	36039	-72264	0.48	(0.29)	0.25	N-60°-E	なし	不明	
63号ピット	第19図	D区3面	36041	-72268	0.62	(0.65)	0.18	N-68°-E	なし	不明	
64号ピット	第19図 PL7	D区3面	36040	-72271	0.28	0.19	0.54	N-37°-E	なし	不明	
65号ピット	第19図	D区3面	36044	-72280	0.78	0.58	0.20	N-2°-E	なし	As-B以前	
66号ピット	第19図	D区3面	36044	-72281	(0.38)	(0.27)	0.36	N-45°-E	なし	As-B以前	第V層上面より掘削

第7表 出土遺物観察表

番号	図号	出土地	器種	流量 (cm)			調整・短文		色調	胎土・石付	現存	備考
				口径	器高	底径	外面	内面				
1	第13図 PL8	C区3号溝	縄文土器 漆鉢	-	(7.7)	-	破状口縁。口縁部に傾位太沈泥。垂下平行沈泥により 低位磨り跡し黒文帯と黒文(LR)帯を区画。	にぶい黄褐色 10YR 6/3	長石、黒・赤 色点	口縁部破片	中期後半	
2	第14図 PL8	D区7号土坑	磨石	タテ 14.5	ヨコ 8.0	厚さ 3.2	ほぼ全面に使用痕がみられる。	-	安山岩	-	549.13g	
3	第14図 PL8	D区7号土坑	古石	タテ 18.1	ヨコ 19.1	厚さ 5.6	扁平な自然理を利用。両平断面に使用痕がみられる。	-	安山岩	-	2094.05g	
4	第16図 PL8	C区6号土坑	縄文土器 漆鉢	-	(6.6)	-	破状口縁。厚状の突起。突起上部に巻帯状沈泥。口縁 部文帯は、円磨と沈泥による横5字状区画。区画 内縦位黒文帯、円磨刺突。口縁部破片に黒文帯。	にぶい黄褐色 10YR 7/3	雲母、白・黒 ・茶色点	口縁部破片	中期後半	
5	第19図 PL8	C区A5 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(6.9)	-	粘土線を貼り付け丁寧なナデ。	黒 7.5YR 6/6	輝石、赤・白 ・黒色点	把手部破片	中期前半 ～中期	
6	第19図 PL8	C区A11 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(5.6)	-	やや破状。口縁部を肥厚させ直下に押し引き文。口縁 部破片平行沈泥。口縁部下部に黒い破状沈泥。	黒 6YR 6/8	長石、石英、 雲母	口縁部破片	中期前半	
7	第19図 PL8	C区B11 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(7.0)	-	隆部に沿って2本の押し引き文。傾位平行沈泥状沈 泥と押し引き文の文様構成。	黒 7.5YR 6/6	長石、雲母、 石英	胴部破片	中期前半	
8	第19図 PL8	C区B6 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(3.4)	-	口縁部下側の括弧部直上に押状の突起。突起上面から 下面に向かって押状工具により穿孔。	暗褐色 10YR 3/3	輝石、長石	口縁下部～ 胴上部	中期前半 ～中期	
9	第19図 PL8	D区C10 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	31.0	(6.9)	-	内外面とも横方向に研削。	にぶい黄褐色 10YR 7/4	長石、雲母、 茶色点	口縁部1/7	中期	
10	第19図 PL8	D区	縄文土器 漆鉢	-	(6.4)	-	破状口縁。隆部とS字状沈泥による厚状突起。突起の 内面に傾位巻帯状沈泥。突起部に連続する円形刺突。 以下傾位区画。区画内縦位LR。	にぶい黄褐色 10YR 7/4	長石、角閃石、 黒色点	口縁部破片	中期後半	
11	第19図 PL8	C区A12 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(5.8)	-	破状口縁。厚状の突起。突起内面に巻帯状沈泥。口縁 部文帯は区画内縦位LRの横位区画。	黒 7.5Y4/1	長石、白・黒 色点	口縁部破片	中期後半	
12	第19図 PL8	C区D13 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(10.0)	-	口縁部文帯は渦巻文と区画内縦位黒文(LR)の両 区画。胴部は平行垂下沈泥により破状文帯と黒文(傾 位黒文LR)帯を区画。	淡黄褐色 10YR 8/3	長石、輝石、 黒色点	口縁部破片	中期後半	
13	第19図 PL8	C区A14 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(6.6)	-	口縁部文帯は渦巻文と区画内縦位LRの横位 区画。	黒 7.5YR 4/3	長石、雲母、 角閃石	口縁部破片	中期前半	
14	第20図 PL8	D区D11 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(6.9)	-	口縁に2線の連続する円形刺突文と傾位沈泥。以下、 集合糸帯を傾位・傾位に交差。	にぶい黄 褐色 7.5YR 7/4	石英、雲母、 黒色点	口縁部破片	中期後半	
15	第20図 PL8	D区C4 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(4.6)	-	連続する平片状刺突文。以下、平行平状沈泥。沈泥部 は磨り跡し黒文。地文は縦位黒文。	にぶい黄褐色 10YR 7/4	長石、雲母	口縁部破片	中期後半	
16	第20図 PL8	D区B15 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(4.2)	-	口縁部隆部を巻帯に残し、以下深く深い縦位集合 沈泥。口縁部部に隆部により肥厚。	灰黄褐色 10YR 5/2	白・橙褐色、 黒色点	胴部破片	中期後半	
17	第20図 PL8	D区A15 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(8.2)	-	垂下沈泥による縦位文帯区画。区画内は渦巻文(O) と垂下破状沈泥。	にぶい黄 褐色 7.5YR 5/3	雲母、白・黒 色点	胴部破片	中期後半	
18	第20図 PL8	C区A14 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	(13.4)	-	-	口縁下部に傾位文帯。胴部は平行垂下沈泥により縦位 黒文帯と黒文(傾位LR)帯を区画。縄文土器内面 には垂下破状沈泥。縦位黒文帯。	にぶい赤褐色 5YR 5/4	長石、角閃石、 黒色点	胴部1/3	中期後半	
19	第20図 PL8	C区B12 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(13.7)	-	隆部と沈泥による区画と垂下破状沈泥による文様構成。 区画内縦位黒文帯。	にぶい黄 褐色 7.5YR 6/4	長石、雲母、 黒色点	胴部破片	中期後半	
20	第20図 PL8	C区B12 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(5.2)	-	胴上部に連続する円形刺突文・傾位沈泥。以下平行状 沈泥区画内に平片状沈泥をまとめたものと、垂下破状沈 泥のみの2つの縦位文帯を配置し、面に円形刺突。口縁 部沈泥内には黒文帯がみられる。	淡黄褐色 10YR 6/4	石英、片岩、 雲母、黒色点	胴部破片	中期後半	
21	第20図 PL8	D区C26 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(4.2)	-	口縁部内面1本、外面2本の傾位沈泥。外面地文は格 子状の細状沈泥。	黒 7.5YR 6/6	片岩、雲母、 黒色点	口縁部破片	後期初期	
22	第20図 PL8	D区D13 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(4.4)	-	やや破状の口縁。口縁部に押状工具による穿孔。口縁 部内面に孔と並べて円形刺突。外面、孔の直下に捲帯、 沈泥の傾位区画。区画内黒文。	灰黄褐色 10YR 6/2	長石、輝石、 茶色点	口縁部破片	後期初期	
23	第20図 PL8	C区B17 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(3.0)	5.8	能力向に研削。	黒 7.5YR 7/6	石英、角閃石、 黒色点	底部1/3		
24	第20図 PL8	D区C4 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(4.2)	7.0	能力向に研削。	黒 7.5YR 7/6	石英、雲母、 茶色点	底部1/4		
25	第20図 PL8	D区C26 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(4.5)	-	ハケ後、筋線等間隔状文・ 筋線状文	黒 5YR 6/6	長石、黒・赤 色点	胴部破片		
26	第20図 PL8	D区D18 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	-	(2.8)	-	ナデ後、筋線等間隔状文・ 筋線状文	淡黄褐色 7.5YR 8/3	長石、黒・赤 色点	胴部破片		
27	第20図 PL8	D区一線	縄文土器 漆鉢	-	(3.0)	-	筋線等間隔状文・筋線 状文	黒 7.5Y 7/6	長石、茶色点	胴部破片		
28	第20図 PL8	D区D12 グリッ ド	縄文土器 漆鉢	12.6	3.2	7.9	コクロナデ、回転ヘラ切削 跡	灰 5Y 6/1 黒 7.5YR 6/2	白・黒色点	口縁～底部 1/4		
29	第20図 PL8	C区A9 グリッ ド	青磁 碗	-	(1.7)	-	還元文	-	オリーブ灰 10YR 6/2	黒色点	口縁部破片	龍泉窯派
30	第20図 PL8	C区B6 グリッ ド	打製石斧	タテ (4.7)	ヨコ 4.7	厚さ 1.1	-	-	-	連続貫筋	刃先欠損	29.32g
31	第20図 PL8	C区	打製石斧	タテ (6.4)	ヨコ 5.8	厚さ 1.2	-	-	-	連続貫筋	基部欠損	60.71g
32	第20図 PL8	D区C18 グリッ ド	石瓶	タテ 2.9	ヨコ 1.6	厚さ 0.8	-	-	-	壁巻帯	口縁～	5.26g 寛永通宝
33	第20図 PL8	D区カクタン	銅製品 銅鏡	直径 2.8	-	-	-	-	-	完形	完形	1.78g

第5章 まとめ

第1節 上中居岡東遺跡3・高関村前遺跡3の調査成果

今回の調査は上中居土地区画整理事業に伴う最後の発掘調査となった2遺跡の調査成果を掲載した。上中居岡東遺跡3では弥生時代後期の方形周溝墓や古墳時代後期の竪穴建物跡が確認された。特に方形周溝墓については東辺の溝のみの検出であったが、南東コーナーよりほぼ完形の壺が出土した。弥生時代後期の遺構は近辺の遺跡からは確認されておらず、西方約600mの高関村前遺跡で集落域が確認される程度である。方形周溝墓については中居町一丁目遺跡や上中居辻薬師Ⅱ遺跡などで検出されているが、いずれも古墳時代前期のものであり、弥生時代後期の方形周溝墓については近辺では初である。

高関村前遺跡3では中世の溝や、包含層中より縄文時代中期後半を中心とした土器片が多量に出土した。時期特定の困難なピットが多数を占めるため、縄文時代に属する遺構を断定することは難しいが、出土遺物と層位から考えると3号溝については縄文時代中期後半の遺構として認定してよいと思われる。また、紙面の都合により詳細に触れられないが、グリッドごとの出土量や中期前半・後期に属すると思われる破片の出土地点を第22図に提示したので参照されたい。

第2節 上中居町・高関町周辺の調査成果について

ここでは、過年度に行われた同事業に伴う発掘調査の成果だけでなく、周辺遺跡の調査成果も加味しながら上中居町・高関町周辺地域の様相に触れておきたい(第23図)。本来であれば縄文時代から近世まで万遍なく触れたいところであるが、ここでは特に示唆に富む情報の多い古墳時代前期の状況について見ていきたい。

古墳時代前期の遺構については、主に上中居遺跡群、上中居辻薬師Ⅱ遺跡、上中居辻薬師遺跡4～7次調査、中居町一丁目遺跡、中居町一丁目遺跡2などで確認されている。集落域は上中居遺跡群の東部より東に向かって展開しているようであり、多くの竪穴住居跡が認められる。集落域の西端付近には北東―南西方向の溝が開削されており、これ以西には竪穴住居跡が全く分布しないため、当該期の集落域を区画する溝の可能性はある。上中居遺跡群の西部および上中居辻薬師Ⅱ遺跡、上中居辻薬師遺跡7次調査では、同一遺構と考えられる大型の幹線水路が南東流している状況がうかがえる。また、これに並行する小規模な溝も確認される(上中居辻薬師遺跡5・7次調査)。墳墓については、西方では上中居辻薬師遺跡Ⅱにおいて、東方では中居町一丁目遺跡において方形周溝墓が確認されている。また、諏訪神社古墳も古墳時代前期の可能性が指摘されている。

また、上中居辻薬師遺跡5次調査で確認された溝からは、上方作浮彫式獣帯鏡と思われる破鏡・勾玉・管玉が一点ずつ近接した状態で出土した。遺構の所属時期が特定できないが、先ほど触れた古墳時代前期頃の小規模な溝が埋没した後に形成されており、古墳時代前期後半～中期頃の溝ではないかと推測される。破鏡が発見された場所は集落域から300mほど離れた水路が複数走るエリアに位置しており、何らかの意図をもって投棄されたものと思われる。ただし、鏡自体は2世紀後半～3世紀初頭頃に製作されたものと考えられるため、古墳時代前期後半頃に投棄されたとすると200年近く伝世していたことになる。また、東方約2kmに位置する柴崎熊野前遺跡からは、遺構外からではあるが貨泉が出土している。これらのように、弥生時代において中国で製作された貴重品が上中居地域や柴崎地域に流入してきていることは極めて重要である。

上中居遺跡群などの周辺遺跡では、東海系・南関東系・畿内系の土器なども散見されており、古墳時代前期に西方からの人的・文化的移動があり、当地に定着したと思われる。先の破鏡や貨泉についてもこのような流れの中で当地に流入し、有力者が所有していたと考えられる。柴崎熊野前遺跡の近辺には、(正)始元年銘が刻まれた三角縁神鏡を含む4面の鏡を所有する柴崎蟹沢古墳が築造されている。小円墳ながら豪華な副葬品を持つことから当地の有力者と考えられ、破鏡を所有し得た人物との関連性も考えるべきであろう。



A区第1面完掘状況全景(南→)



A区1面1・2号溝完掘状況(南東→)



B区第1面1号土坑完掘状況(東→)



B区第1面完掘状況全景(南→)



B区第2面完掘状況全景(北→)

PL-2 (上中層岡東遺跡3)



B区第2面1号方形周溝基弥生土器壺出土状況(南東→)



B区第2面1号竪穴建物跡床面検出状況(北西→)



B区第2面1号方形周溝基完掘状況(南東→)



C区第2面完掘状況全景(南→)



C区第2面4号溝完掘状況(東→)



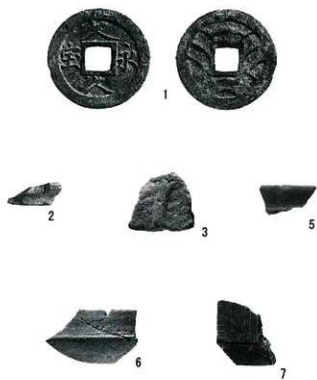
C区第2面3号溝・2号土坑完掘状況(南東→)



C区第2面4号溝・4号土坑完掘状況(南東→)



C区第2面3号土坑完掘状況(東→)

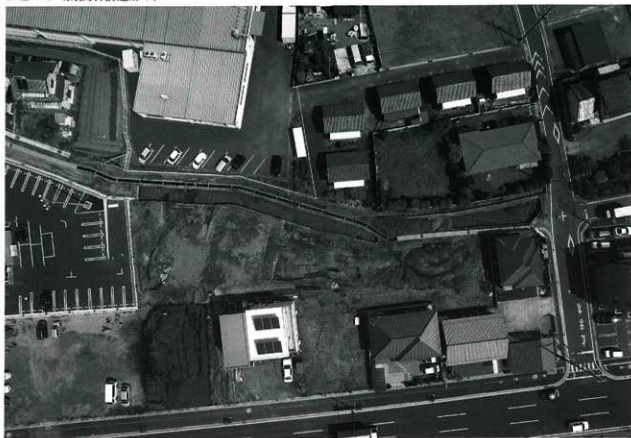


出土遺物



4

PL-4 (高関村前遺跡3)



全景 (上が北)



遠景 (北西→)



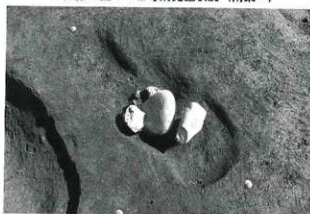
C区第1面6号土坑完掘状況(南東→)



D区第1面1・2号溝完掘状況(南東→)



D区第1面9・10号土坑完掘状況(南東→)



D区第2面7号土坑出土状況(西→)



C区第2面3号溝完掘状況(南西→)

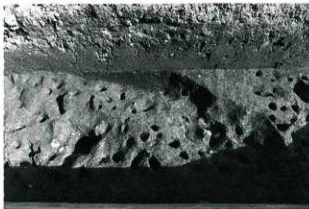


D区第2面土坑・ピット群完掘状況(南→)

PL-6 (高関村前遺跡3)



A区第3面東半完掘状況全景(東→)



A区第3面4号溝・4号土坑完掘状況(南西→)



A区第3面2号土坑完掘状況(南西→)



B区第3面東半完掘状況全景(南東→)



B区第3面西半完掘状況全景(南東→)



C区第3面東半完掘状況(南西→)



C区第3面西半完掘状況全景(東→)



C区第3面11号土坑・45号ピット完掘状況(南東→)



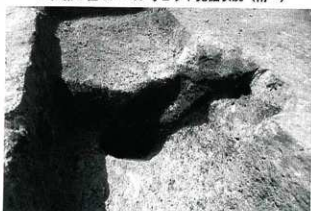
D区第3面東半完掘状況(西→)



D区第3面55～59号ピット完掘状況(南→)

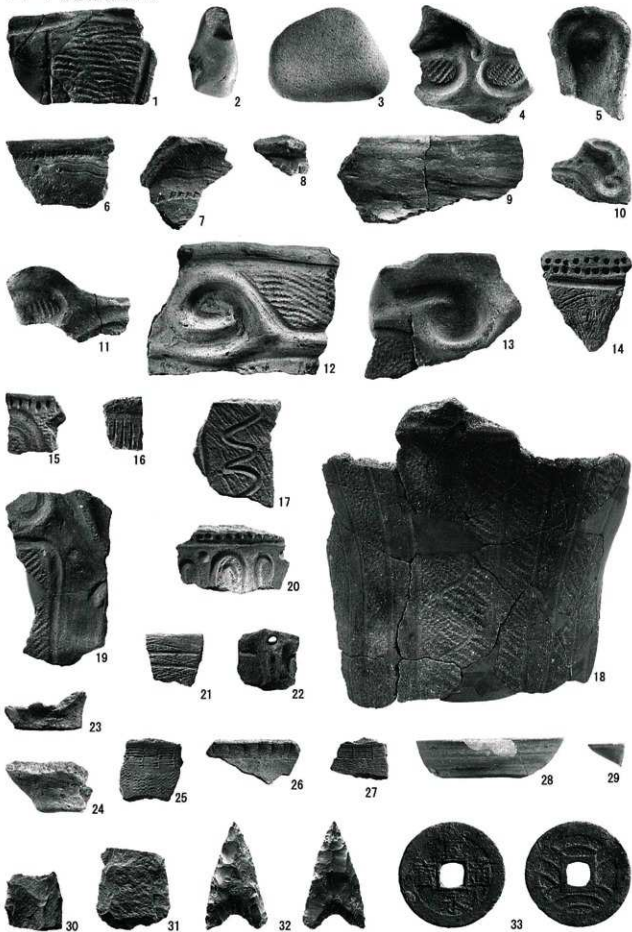


D区第3面西半完掘状況(南東→)



D区第3面64号ピット半掘状況(東→)

PL-8 (高岡村前遺跡3)



発掘調査報告書抄録

ふりがな	かみなかいおかひがしいせき3・たかぎむらまえいせき3
書名	上中居岡東遺跡3・高関村前遺跡3
副書名	上中居土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第381集
編著者名	大野義人
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地の1
発行年月日	平成29(2017)年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
上中居岡東遺跡3	高崎市上中居町 字岡東	10202	481	36° 19' 18"	139° 2' 4"	20100728～ 20100819	67 ㎡	道路築造
高関村前遺跡3	高関町字村前		560	36° 19' 20"	139° 1' 43"	20130205～ 20130328 20130404～ 20130430	740 ㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上中居岡東遺跡3	集落 墳墓	弥生時代	方形周溝墓	弥生土器	
		古墳時代	竪穴建物跡	土師器	
		古墳～平安時代	溝		
		近世	溝		
高関村前遺跡3	生産 包含層	縄文時代	包含層、溝、土坑	縄文土器	
		平安時代以前	溝、土坑		
		中世	溝、土坑		
		時期不明	溝		

高崎市文化財調査報告書第 381 集

上中居岡東遺跡 3 ・ 高関村前遺跡 3

印刷日 平成 29 年 3 月 27 日

発行日 平成 29 年 3 月 31 日

編集 高崎市教育委員会 文化財保護課埋蔵文化財係

発行 高崎市教育委員会

〒370-8501 群馬県高崎市高松町 35 番地の 1

電話 027 (321) 1111

印刷 野島印刷株式会社
